

# 村上博輔日記抄 十

自大正八年四月一日  
至大正九年三月三十一日

大正八年

四月一日 火 晴（前略）夜祈祷会、久シ振リニ往ク。

四月三日 木 晴（前略）野々村（戒三）<sup>(1)</sup>ニ光村<sup>(2)</sup>ノコト、

二年編入試験ノコトヲ談シ池田（多助）<sup>(3)</sup>氏ニ問題ノコトヲ云フ（後略）

四月五日 土 晴 中学部入学試験、<sup>(4)</sup>二三度廻ッテ見

ル。堀（峰橋）<sup>(5)</sup>氏ニ逢フ。午後高等部試験ノ相談トシテ集ル。夜池田（多助）氏ノ宅ニ集リテ前学校ノ成績調ヲヤル。十一時マデカ、ル。

四月六日 日 晴 朝関西（学院教会）ニテ礼拝ノ話ヲスル。信仰ノ独立。（後略）

四月七日 月 晴 入学試験、<sup>(6)</sup>午前二済ム。学生会館デ昼飯。フライニオムレツニ飯、ソレデ五十錢一枚、（中略）午後中学部成績発表、（中略）夜池田（多助）氏ニ明日ニ

年試験ノ問題ノコトヲ話スツモリデ往クト、寝テ居タノデ竹チャンニコトヅケシテオイテカヘル。<sup>(7)</sup>

四月八日 火 晴 朝二年編入試験、引ツゞイテ成績シラベ、（R・C・）アーム（ストロング）<sup>(8)</sup>氏宅ニテ、カクテ西洋食ノ夕飯ヲ食シ、拙宅ニ階ニテ調査ヲツゞケ二時マデカ、ル。

四月九日 水 晴 朝第一成績発表、ツゞイテ雑用、昼飯共同ノ方ヘ往カズ。午後ヨリ成績シラベ、夜西洋料理、ソレヨリ教師会議、<sup>(9)</sup>ツゞイテ成績シラベ、二時マデカ、ル。小沢（瀆）<sup>(10)</sup>氏トマラル。雨フル。

四月十日 木 曇 午前発表ノ準備ヲ了リ、中学部田中氏訪問、午後人々訪ネ来ルコト引モキラズ、飯モ安ラカニハ食ハレズ、夜ニ入ル。<sup>(12)</sup>

四月十一日 金 曇時々雨 八時始業式、種々ノ用事、

正午マデ在校。午後ハ例ノ人來ル、(後略)

四月十二日 土 晴 朝学院ニ出デ、用事ヲナシ、西山(広榮)<sup>(13)</sup>氏ヲ訪フ。四銭ニナツテカラ初メテ電車ニ乗ル。

宇治川ニテ下リル。ソレヨリ以前ノ所ヘ往クト転宅シテ住所不明、日野原デ聞ケバ分ラウト思ヒ、往ク途中交番所デ聞クトスガ分ル。帰リテクルト潁川ノ夫人訪來、午後ハ上田熊次郎<sup>(15)</sup>、及ビ文科補欠入学者ニ通知ナドノコトアリテ忙シ、(後略)

四月十三日 日 晴 朝(神戸)東部教会ヘ走ツテ往キ、河上<sup>(16)</sup>入學ノコトヲ知ラス。其他人ガ來ル。人ヲ尋ネル、少シ減ツタガ矢張り随分アルノデアル。説教ハ小野(善太郎)<sup>(17)</sup>氏、睡リテキカズ、(後略)

四月十四日 月 曇 菊池(七郎)<sup>(18)</sup>氏ヲ訪ネ、組合ノ記録ヲワタス。大岩(元三郎)<sup>(19)</sup>氏ヲ訪ヒ、長谷川<sup>(20)</sup>ノコトヲ談シテカヘル。(中略)夕飯慰勞会トシテ(J・C・C・ニュートン)氏<sup>(21)</sup>ニスギ焼ニテヨバレル。会スルモノ三部ニテ八名、入學式ニ骨折ツタモノハ他ニモアリ、鋤焼位ノ所ナラ汎ク與ラシメタ方ガイ、。主要ナルモノヲヨブノナラ、モ少シ立派ニシテ呼ンダ方ガイ。金ヲ出シテ人ニ馬鹿ニセラレルモノガアルガ、此翁ノハ何モ悪心デシタノデハナイ。

四月十五日 火 曇後雨 午後学院ニ集リテ入學手續不了ノモノヲ調ベル。大雨降り來リテ帰路ヲ心配シタリシガ、幸ニシテ輕クナル、(後略)

四月十六日 水 曇 朝中学部ニ往キ、高等部ニ往キ忙ガハシ(後略)

四月十七日 木 晴 授業始ル日ナレドモ業ナクシテ終ル(後略)

四月十八日 金 晴後曇、夜雨 午後教師會議<sup>(22)</sup>、學年試験ノゴタ<sup>(23)</sup>落着ス。

四月十九日 土 雨霽(前略)忙シサマダ止マズ、今朝急ニ札拜ヲ頼マレナタナエルノナザレヨリ何ノヨキモノ出デンヤニツキ話ス。<sup>(23)</sup>

四月二十日 日 晴 朝湯淺(時太郎)<sup>(24)</sup>氏ヲ訪ヒ清水ノコト聞合ス。不明ナリ。説教ハ西条(寛雄)<sup>(26)</sup>氏、定マツタ口調ヲツイデ、ノブルコト何処モ同ジ。腹ヨリ出デタル話ヲ聞クコト少シ。愁ノ色ヲ滯ビテ喜ノ福音ヲ説ク矛盾ガトレネバ、伝道ハ力ナカルベシ、(後略)

四月二十三日 水 晴 何年目カニ休ミノ日ガ出来タ。今日ハ神学部ノ方モ時間ガナイデ、朝寝、昼寝モ仕放題ト云フノデアッタガ、臨時ニ二寸用事ガ出来タノデ、小沢(廣)<sup>(27)</sup>サンヲ尋ネル。岡島(政尾)<sup>(27)</sup>サンヲ尋ネル。(J・C・C・)

ニユートンヲ尋ネル。居ランデ神戸ニ用ガアツテ往ク。延長線<sup>(28)</sup>ニ乗始メスル。帰ツテカラ、〈J・C・C・〉ニユートンヲ尋ネテ逢フ。午後謡ニカ、ラウト云フ所デ大岩〈元三郎〉サンガ呼びニ来ル。大学案ニ就イテ〈J・C・C・〉ニユートンガ尋ネタイコトガアルト云フノデ、昨日カラ分ツテ居タノジャガ、具体的ノ相談デモアルマイシ、一人カ二人カ居レバヨイト思ウテ、今日ハ疲レテモ居ルシ、スパ拔ケウト思ウテ居タノヲ、呼ニ来ラレテハサウモナラズシテ往ク。学生会館ノ飯ノ間デ、大岩〈元三郎〉、畑<sup>(29)</sup>〈飲三〉、池田<sup>(31)</sup>〈多助〉、予〈村上博輔〉、尋ネル方ニハ牛董<sup>(30)</sup>翁ト吉岡〈美国〉翁、辱クモ代々ノ院長列座ニテ洪茶ニカステラガ二切レヅ、配ツテアツテ、先頃同窓生ガ来テ大学昇格ノコトヲ求メタデ、其理由ハ如何ト問フニ誰モ答ヘ得ナカッタ。ソレデ諸君ニ其理由ヲ問フト謂フノデアッタ。此位ヨリ分ツタコトハ無イ。人ト云フモノハ妙ナモノデ、大岩〈元三郎〉君ガ第一ニ私ハマダ規則等ヲシラベテ居ランデ答ヘルコトガ出来ナイノヲコンフェッススルト、英語ハ流暢ジャガ、随分貧弱ナ答ヲスルデ、予〈村上博輔〉ガ二條ノ理由ヲ云フト、後カラく同ジコトヲ言換ヘテハナスモノガアル。ソレカラ種々ノ話モアッタガ、アトデ角力場ヘ走ツテ往クト、写真ヲ写スカラ、ハ入レト云フ。ソレ

ガ済ンデ新任教師ノ歓迎会アリテ往ク。学生会館ノ二階デ、例ノカチくハエ、ガ、〈R・C・〉アーム〈ストロング〉氏ガ挨拶ヲヤツテ居ルノト思ヒツ、ソレハ聞カズニテニスノ練習ヲ見テ居ルト、文科ヲ代表シテ村上サンノ挨拶ガアリマスト云ウテ話ヲヤメル。寝耳ニ耳デハナイ、テニス耳<sup>(32)</sup>ニ出シヌケノ演説、ソレカラコツく暫クハ無言デ食フ、無作法ナ給仕人、向ウノ方ニハ次ノ皿ヲ出シテ、ソレガ尽キルト云フ頃デアルノニ、コチラヘハマダ皿ヲ更ヘニ来ン。ノハ、マダ許スベシトシテ、何時ノ間ニカパンノ入レテアル皿ヲヒツサラヘテ往ク。ヤ、今此処ニアッタガ、糞ト思ウテソコラニ来ヌ人ノ皿ガアッタノヲ引ヨセテ其バシ<sup>(33)</sup>ヲ食フ。所ガ一片食ウタコロ、又ソノ皿ガ紛失スル。畜生メ皿ガ足ランデ、ソット来テハ手近ニ在ルノヲ引浚ヘテ往クト見エル。コリヤア悪イ所ヘ座ツタト後悔先ニ立タズ。其中ニ卓上演説ガ始マルガ、西山〈広栄〉氏ガ初メ商科ヲ代表シテノ挨拶ヲヤツテ、其中ニ少シ皮肉ツタノガ氣ニナルト見エテ、西洋人ノ方ニハ何ウモ其弁護ヲシイ声ヲハナツコトガハヤル。屁出<sup>(34)</sup>君ハ腹ヲフクラシテ真赤ニナツテ我々ガ月ヘ飛ビ上ラレンノハ、上リ得ルト云フ信仰ガ無イカラデアルトマデ脱線スル。ナンナラーッ信仰ヲ興シテ〈T・H・〉ヘーデン月飛ビノ段デモ演ジテモラフト面白

イガ、ソレハ出来マイ。其中ニ外岡（松五郎）<sup>(34)</sup>氏ガ西山（広栄）ノ弁護ヲヤル。他ハ皆通り一遍ノ極リ文句、ソレヲ一時間モ聞カサレルノハ閉口ト思ウテ居ルト、時実（佐平）<sup>(35)</sup>君ガ指名モサレナイノニ立ッテ蛇足ヲソヘル。私ハ此学院ニ来テ心ノ満足ヲ得タ証拠ニ、身長ガ二分伸ビマシタハ大笑ヒ、毛ガ伸ビタノデアラウト誰カ交ゼカヘスト、毛ハ段々禿ゲマス、然シ所々白イノガ黒クナリマシタト真面目ニ云フ。ソレカラ佐藤（清）<sup>(36)</sup>君ガ英国人ノコトヲ種々誉メタテルト、後ニ小野（善太郎）君ガコレモ指名セラレンノニ立ッテ満腔ノ感謝ヲ捧ゲル。英国人ノ長所ガヨホド氣ニ入ッタト見エル。コレカラ何回カ講壇ノ話ニナルコトデアラウ。佐藤（清）君ノ話ハ英国ノ兵士ガ負ケシテ居ルコロニ、輸送セラレテドーブル海峡ヲ渡ル間一人一言ヲ出シタモノモナカッタノヲ、日本ノ軍人ガ見テ、卑怯ナノカ、勇氣ガアルノカ分ラント批評シタト云フノガ一ツ、（R・C・）アーム（ストロング）氏ハ其後ニ立ッテ英国ノ兵士ハ沈着デアル、勝利ヲ確信スル。英国ノ軍ハ未ダ一度モ破レタコトハナイト云フト、（T・H・）ヘーデン君ヨークタウンハ例外トシテト大ニ放ル。ト、（R・C・）アーム（ストロング）モ予ハカナダ人ナレバカナダノ立場カラ云フト言拔ケル。大岩（元三郎）君ハ西洋人ハ甘イコトヲ云ヒマ

スナアト感心スル。何ガ甘イカ、イツデモ借金取りニ追回サレテ居タオマン方ノ姿ハ、モ少シ甘イ言拔ケヲ變幻自在ニヤッテ居タ。全体英国兵士ガ輸送中一言モ発シナカッタト云フコトハ沈勇ノ証拠トハナラス。司馬溫公ハ酒ヲ飲ンデ謹ノ加ハル所ヲ即チ酒ノ害ジャト云ウテ居タ。平生黙ッテ居ルヤツガ黙ッテ居ルノナラ当然ノ話ジャガ、ヨク喋言ル奴ガ、ジツトシテダマリコングダト云フ所ニハ必ズ精神的变化ト云フモノガナケレバナラス。沈勇ハ酒ノ氣ヲ借りテ騒グノデハ無論ナイガ、平日ノ通りニシテ少シモ變ラヌ所ニアル。吉田松蔭ガ首ヲ切ラレテモ金玉ガ釣ラナグダト云フ所ニアル。鼠ヲヒツ掴ムト啼キモセズ動キモセズ、ヂツトシテ居ルモノジャガ、ドーヴル海峡ハソレデハナイカ。勝軍トナッテカラ何ウイフ風ニシテ往ッタカラシラベタラヨクワカラウ。ソレカラ独逸ノ飛行機ガロンドンヲ攻撃シタコロ、停車場ナドデ人々ガサハガナグダト云フノデアル。コレモ佐藤（清）君ガノコト出カケタ頃ニハ市民ハ大ニ危険ト云フモノニ慣レテ居タラウ。慣レルト平氣ナモノデアアルコトハ、お庵物語ニモ女ガ矢ノ飛ンデ来ル所デ、平氣デ男ノ手伝ヲシタリ、首ニ札ヲツケタリシテ居タト云フ話ガアル、何モチャホヤ言フ程ノコトハナイ。其反証ガホシケレバ幾個モアル、ガ只一ツ日本デハ彼ノヤウニ良心

ノ自由ト研究ノ自由ガ得ラレヌト云フ実デアル。

四月二十四日 木 晴 (前略) 寄宿舎ニ歓迎会ガアツテ謡ニ来ズ。夜(D・ノルマン氏<sup>38</sup>)ノ活動幻燈(Pantheoscope)アリテ見ニ往ク。(後略)

四月二十五日 金 晴 大掃除、午後学生会総会ニ新入生歓迎会アリ、(後略)

四月二十七日 日 晴 (関西学院)教会ハ小野(善太郎)氏ノ説教、湯浅(時太郎)氏ト共ニ帰ル。山本(清右衛門<sup>39</sup>)氏暇乞ニ見ユ。夜六時何十分三宮発ノ汽車ニテ山本(清右衛門)氏ノ去ラル、ヲ送ル。普通部生徒ヲ始メ見送人多シ。

四月二十九日 火 曇 (前略) 其後小野(善太郎)氏来訪、米国行ノコトヲ話サル、今日広島人会アリ。

四月三十日 水 曇小雨 午後三時ヨリ柔道部ノ新入者歓迎会ト臨時四季会ト兼ネテアリ。四季会ノ方ヲスマシテ歓迎会ノ方ヘ行ク。一寸間ニ合フ。(後略)

五月一日 木 雨 午後二時ヨリ剣道部ノ稽古始ヲ兼ねテ、新入者歓迎会、稽古始メハ中学部道場、元氣満チテ面白シ。歓迎会ハ学生会館、一場ノ話ヲナス。(後略)

五月二日 金 曇 午後選手持遇規定委員ノ会合ヲ開ク。何ノ決スル所モナイト云フノハ、運動部ニ関係アル委員ハ然イフ規定ガ出来ルト、ソレダケデ他ノ自由ガ利カヌ

デ、規定ナシニ点ヲ直シタリシテ自由ニヤリタイト云フ積リ、ソレヲ然イハズニ何トカ角トカ云フノジヤカラ決セヌ。ホツテ置イテ見ルガイ、此頃ニハ此前ノヤウナ何時ノ間ニカ点ヲナホシテ知ラヌ顔デ居ルヤウナコトハ許サヌカラ火事泥ヲヤル奴ニハ救助米ノ必要ハ勿論無カラウ。青年会デ歓迎会ガアリ、賀川(豊彦<sup>40</sup>)ガ演説スルト云フ張出シデ憲兵ガシラベニ来タゲナ。来ル奴モ来ル奴ジャガ、学校ガ昇格運動ナドヲヤツテ居ル際、無遠慮ニ赤星ノ付イテ居ルモノヲ呼ンデ講演ナドヤラセルコトハ政策上ヨクアルマイ。

五月三日 土 晴 活動写真ヲ写ス西洋人、三戸(吉太郎<sup>42</sup>)氏連レテ来リ原田社前ニテ撃剣ヲ写ス(後略)

五月四日 日 晴 須磨ニ又新(日報)ノ角力大会アリ、(村上)楨三朝ヨリ行ク。礼拝小野(善太郎)氏説教、後デ教会々議アリ、残ラズシテ帰り、(村上)謙介ト共ニ須磨ニ往ク。(中略)学院選手成績甚ダワロシ(後略)

五月五日 月 晴 午後文学会三時ヨリト思ウテ往ク。一時ヨリニテ佐藤(清)氏ノ話ス所ナリキ。(44)其後感話ト云フノデ一番ニ大崎(治郎<sup>45</sup>)ガ話ス。次ニ(村上)謙介他ニ二人ノ話アリ。予(村上博輔)モ話セト云フノデ一寸話ス。斯イフ会ニナルト得テ低能ガ飛出シタガルモノデ

アル。出来ルヤツハ自重スル。出来ヌ奴ハ自ラ出来ヌト云フコトヲモ知り得ヌ所デ、遠慮ナク出シヤバル。今日ノ大崎（治郎）モソレデアル。常識ノアルモノナラ陰ヘデモカクレルヤウニシテ居ル筈ノ男デアル。然シサウ云フ奴ガ喋舌リ出スト、必ズ学校ノ攻撃、教師ノ悪口ミタイナコトニナル。学校ヤ教師ノ悪口ヲ云フト、可笑シイカラ人ガワラフ。又同ジク無常識ナ奴ハ大ニ痛快ニ感ズル。ソレニ同輩ノ攻撃ヲヤルト、スグヤリ反サレルガ、教師ハ悪口ヲ言ハレテモ黙ッテ居ルカラ、気焰ヲアゲルニハ甚ダ都合ガヨイノデアル。ケレドモ心アルモノハ生徒デモ、然イフコトヲ無遠慮ニ云フモノニ対シテ自ラ侮蔑ノ念ヲ生ゼザルヲ得ナイノデアル。教師ト云フテモ老人ナドノホカハ然イフ話ヲ聞イテ心ヨクハ思ハヌ。而シテ其ガ其者ニ対スル賤ミトナリ、ムキツケテハ何トモ言ハヌガ、其影響ハ種々ノ点ニアラハレル。親シキ中ニモ礼儀ハ守ルノガ大切ジヤ。教会デ古信者ノツマラヌ奴ガ、何事ニモ出サバツテ、新参ノ有望ナルモノヲ失望サセ遠ケル例ガ沢山アル。今日ノ文科モ其恐れガアル。上級ノモノハ慎重マスト有為ノ学生ヲホリ出シテ、文科ノ發展ガ阻害セラレル。現ニ文科ノ教師デモ文科ニ対シテ好感情ヲ有スルモノガ、甚ダ少イデハナイカ。野球ノ練習ヲ見テカヘル。田中（義弘）<sup>(46)</sup>ニ逢フ。（後略）

五月六日 火 晴 午後三時ヨリ育英（商）トノ野球練習試合ト、モ一ツ雄弁大会ガチャペルデ開カレレ。野球ハ昨日カラ案内ヲ受ケテ居ルノデソレカラ往ク。三回マデ見ル。アマリ氣ノ毒ナヤウナノデ中止シテカヘリ、演説会ヘ往ク。集ッテ居タモノハ、多分弁士ダケカ、或ハソレニ一二人加ヘタ位ノモノデアッタ。尤モ晩カッタノデ帰ッタモノモ多カラウ。由木（康）<sup>(48)</sup>ノ話ノ最中、ソレガ済ンデ（村上）謙介ノ話アリ、ソレデ済ム。顧問ノ河上（丈太郎）<sup>(49)</sup>教授ノ張出シガアッタガヤツテ来ヌ。野球ヲ見テ居ッタカラ多分失敬シタノデアラウ。野球ノ試合ナドガアツテハタマラスト云ウテ、コチラハ無イト思ウテ定メテモ、アチラニ遠慮ナクヤツテ来ルカラ仕方ガナイ。大崎（治郎）ニ言ハセルト野球部ノ横暴デアラウガ、恨ンデ居テモ仕方ガナイ。講演会ノヤウナモノハ、成ルベク時間ヲ短クシテ土曜ナドデナイ日ニスル方がヨクハナイカ。

五月八日 木 晴 午後佐藤（清）氏ノ特別講演ガアツタガ、作文添削ガ忙シカツテ往カナンダ。（後略）

五月十日 土 晴 午後中学部対神（戸）商（業）ノ野球試合、二対一ニテ勝ツ（中略）高等部野球選手（神戸）二中ト試合ノ筈ナリシガ、（神戸）二中方ヨリ辞リ来リ鳴尾ニ於テ明星ト試合シ十三対一ニテ勝チタル由。

五月十一日 日 曇後雨 小野〔善太郎〕氏説教、イエ  
スト聖母、後ニ〔関西学院〕教会々議アリ。（後略）

五月十三日 火 曇 風烈シ 夜祈祷会ニ往ク。由木  
〔康〕氏司会。

五月十五日 木 晴 一時ヨリ佐藤〔清〕氏ノ講演ニノ  
ゾク。二時ヨリ教師会、四時ヨリイチゴ会。

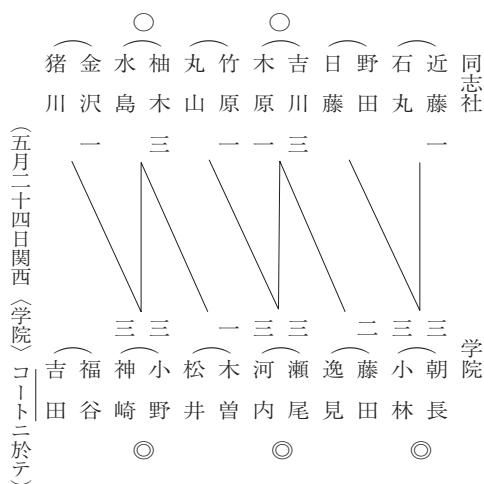
五月十七日 土 晴 午後灘駅ニ小野〔善太郎〕氏ノ渡  
米ヲ送ル。其ヨリ对同志社ノ蹴球戦ヲ見ル。一對一ノ同  
点ニテ無勝負ニテ時間トナル。サレドモ強ミハ先方ニアリ。  
其後中学部対〔神戸〕高商ノ野球アリ。一對〇ニテ勝ち居リ、  
八回ウラニテ一二点ハイル所ヲ深見ト云フアンパイアノ手  
加減ニテ入ラズ、九回ニテ〔神戸〕高商一点トアンパイア  
ニセーフニシテモラウテ一点、ツマリ二点ヲ得テ勝ト云フ  
コトニシテ止ム。（同志社ニ於テ野球試合四対二ニテ勝ツ）  
夜歌ノ夕、祈祷及祝祷ヲスル。

五月十八日 日 晴 朝司会、今日ヨリ小野〔善太郎〕  
氏ノ代リヲスル。説教〔神戸基督教〕青年会主事高谷〔道  
男〕氏、題青年ノ幻影。午後校内ヲ散歩シ鈴木ト談ス。（後  
略）

五月十九日 月 晴 午後中学校内野球大会ヲ見ル。  
一年A、二年何組ノ試合、八対五ニテ一年勝ツ。次二二年

ノ或組ト三年B組（？）、二年七、三年一Aトコロニテ帰ル。  
五月二十二日 木 晴（前略）夜野々村〔戒三〕氏宅  
ニテ大学昇格ノ相談会、十二時過ニカヘル。

五月二十三日 金 晴（前略）野球ヲ見ニ往ク。四年  
ハ試合ヲ見、次二二年ノ中ノ弱キモノヲ各組ヨリ集メテツ  
クリタル組ト教師ノ試合アリ。馬ト豆ノ取組デ而モ馬ガホ  
口負けノ滑稽。成全寮ノ辺ニハ同ク驢馬ノヤウナ神学生ガ  
四五人立ッテ居テ、ヘ、ン暴球ヲ投ジルネーハケツガ晒フ。  
一回スンデ返ル。



五月二十四日 土 晴 午後〈神戸〉高商ト蹴球戦、一

対一、キックハ三対一デ勝チトカ。最早スミカケテ居タ所  
ヘ往ク。其ヨリ同志社ト庭球試合、大勝。其次ニ〈神戸〉

一中校庭ヘ野球ヲ見ニ往ク。七回位ノトコロナリ。七対四  
ニテ負ケ（我が選手ハ近藤、四本、永田ノ三好打者出デズ、  
ソレニ例ノ失策ニテ三回点取ラレタル由）（後略）

五月二十五日 日 晴 礼拝三戸〈吉太郎〉氏（成効ノ  
鍵）、〈神戸〉高商ニ庭球ノ優勝大会アリタルタメ、中学部  
ノモノハ一人モ来ラズ。（後略）

五月二十九日 木 晴 午後米国大使モリス及金子（堅  
太郎）子爵ガ来ルカラ三時ニ集レト云フ達シ。午睡ラシ  
スギテ遅ウナッタガ、始ッタ位ノ所ガヨイト思ッテ、ユッ  
クリ髻ヲ剃ッテ居ルト、開会ノ祈祷ヲシテクレヨト云フテ  
（J・C・C）ニユートンカラ頼ンデ来タノデ大急ギデ  
飛デ行ク、金子ハ子爵堅太郎デハナイ。鈴木ノ社員ノ金子  
ナニガシト云フモノデアッタ。オカゲデ夜組会ヘ往カレナ  
ンダ。

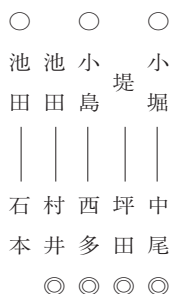
五月三十日 金 晴 午後一年ト中学部ノ柔道試合<sup>(57)</sup>  
アリ。ヨイ相手同士ニテ引分ケニ終ッタガ、高等部ノ方ハ息  
モ切ラサズ、寧ロアシラヒ気味デアリ、中学部ノ方ハ大息  
ヲ切ラシ、猛迅ニヤッタ、ケノ差ガアル。同志社ト〈神戸〉

高商ノ剣道試合ガアッタガ往カナンダ。（後略）

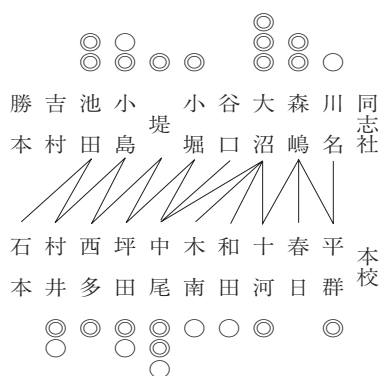
高一										中学									
大将	平野	副	粕谷	熊木	谷口	上田	吉原	木原	桑島	細川	吉田	片山	上田	河内	門脇	三輪	宇都宮	田中	武藤
△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

五月三十一日 土 晴 十二時ヨリ同志社大学ト剣道ノ  
試合ガアルト云フノデ往クトネツカラ来ヌ。其中二時頃ニ  
ヤッテ来テ而モ昨夜食物ガ当<sup>マ</sup>ッテ五人ハ腹痛シテ試合ニ堪  
ヘヌト云フ。ソレナラ止メウト云フコトニナッテ帰り、着  
換シテ野球ヲ見ニ往クト又ヤルト云フノデ往キテ見ル。





審判者ニヨル勝負ハ下表（註 模写ニ当リ右上部ニ記シタリ）ノ通りデアルガ、此審判（同志社方ヨリ来リシモノ）ハヨク分ラヌノカ不公平ナノカ、実ニ不都合極マルモノデアッタ。<sup>(38)</sup>



明ニ斬リタルモノヲ関西（学院）方ノハトラズ、危シト見レバツマラヌ大刀ヲモ味方ノハ取ルト云フ風デ剣士ノ面汚シト云フベキモノナリ。中尾（徳一）以下ノ五人ハツマリ此手デ葬ラレタモノ、殊ニ如何ナル素人ニモ見ラレ得ルシラ（サノモノヲ云ヘバ村井（種一）ガ池田ノ胴ヲ二度マデモ見事ニ切り居ルモノヲ取ラズ、池田ノ面ハ額ヲ斜ニ打チタルノミナルニ、之ヲ取リテ勝トセリ、其他中尾（徳一）ノ小堀ノ小手ヲ切りタルトキ確ニ利キ、坪田（寿男）モ堤ノ小手ヲ切り居レリ。小島ノ横面、小手ハ池田ノ小手ナド、共ニ価値ナキモノヲ取レリ。今予（村上博輔）ノ見タル所ニヨリテ点ヲ付クレバ左ノ如シ（註 模写ニ際シ右上部ニ記ス）。

池田石本（廣一）ノ試合ハ百歩ヲ譲リテ池田ニ小手一本ヲ許サンノミ。但シコレハ審判ノ取リタルモノニアラザルナリ。其他同志社ノ選手ハ態度モ宜シカラズ、試合ニ当リテモ甚ダキタナシ。勝負ハ一時ニシテ彼ヲ斬レバ他ハ難ナヲ知ラス者共ナリ。（池田ハ大将ニテ彼ヲ斬レバ他ハ難ナキモノナリ。）次ニ野球、同志社普通部ト中学部ト。中途ヨリ見タル故ニ、記録ナシ。予（村上博輔）ガ往キタルトキ、同志社一、中学部○ナリシガ、岡田ノホームラン（二塁打ヲ敵マゴツキタルモノ）ニ同点トナリ、其ヨリ勝越シ

五対一二ニ勝ッ。

六月一日 日 晴 礼拝 日野原<sup>(59)</sup>〔善輔〕氏説教、神人ノ面識ト云フ妙ナ題、貫徹シタ趣意ハ神ト共ニ往ムト云フ位ノ所デアッタガ、種々ノ感話ノ中ニハ善キモノモアリキ。山口県ノ大理石ヲ掘<sup>(60)</sup>ツテ居ル誰ヤラガ云フタ牧師ハ人ヲ救ヒモスルガ、又人ヲ躓<sup>(61)</sup>カセ亡ボシモスル。ソレハ眼ニ見エヌガ、救フ数ヨリ多イカラ恐ロシイト云フノハ、大ニ省ミネバナラヌ点ジャ。午後〔村上〕楨三ヲツレテ鳴尾ニ往ク。(中略) 関西〔学院〕ト〔大阪齒科〕医専ノ試合ハ始マツテ居ルデアラウト思ウテ居ルト、右ノ次第デ初カラ見ルコトガ出来タ。坪川〔宣一〕ガボールヲ無限ニ出シタノデ九点トラレタ。六回目カラ柳田〔周蔵〕ガ代リ、ソレカラハ一点モ入レサセナンダ。二十三対九ニテ勝ッ。(後略)

六月三日 火 曇 (前略) 祈祷会ノ司会ヲスル。無信仰ノ危険ヲハナシテ其救済ノタメニ祈ル。

六月五日 木 曇 中学部落成式祝ノ式ガ例ノテニスコートデ開カレル。神崎驥一ノ演説ガアル。<sup>(61)</sup>其後ハ休ミトナル。口実サヘアラバ、スグ休ミトナル。今ノ若イ者ハ勝手ナモノジャ。然シソレダカラ、老人ハ困シカラウ。(中略) スルト神学部ノコートデ人ガ騒イデ居ルト云ウノデ、

往ツテ見ルト啓明寮ト成全寮トノ試合ガアル。坊主ノ方〔成全寮〕カラ始メタサウダガ、恐ロシイヤジリ合ヒ、妨害ノシアヒ、随分見苦シカッタ。啓明寮ガ勝ッタ。

六月六日 金 曇 午後謡ニ来ルノガ遅イデ商科会ガアルタメト思ヒ、弓術小会ヲ見ニ往クト呼ニ来テカヘル(中略)、ソレヨリ又弓ヲ見ニ往キ野球ノ練習ヲ見テカヘル。

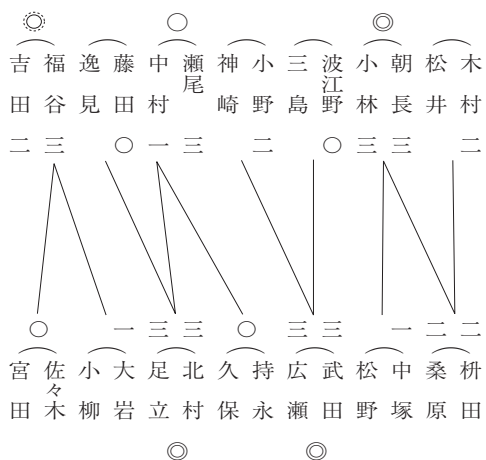
六月七日 土 晴 午後〔神戸〕高商トテニスノ試合、道楽者ノ呼物デ、往テ見ルト人ハ幾重ニモ堵列<sup>(62)</sup>シテ入り込ム隙モナイ。応援隊ハネットヲ界ニシテレシーヴ方ニハ〔神戸〕高商、サーヴ方ニハ関西〔学院〕ガ崖ノ斜面ニヒツ<sup>(63)</sup>シリ並ンデ居ル。関西〔学院〕ノ方ハ個人的応援ヲ一切禁止スルト云フノデアッタ。大分練習シテ来タケヨクヤッタ。〔神戸〕高商ノ生徒ガ応援ハオサヘタノウ。余計来ヤガッタ、アレホド来ウトハ思ハナンダト云ウテ居ッタ。歌モ大分コシラヘテ居ッタガ、カッポレハチト下品ジャ。又味方ノ勢不可ナル場合ニ活氣ガ衰ヘルノモイカン。(神戸)高商ハ練習セナンダノデ貧弱デアッタ。有触<sup>(64)</sup>レタ歌ヤ、キツト勝ちマス勝タセマスノ一点張り、然シマゼッカヘシト負けテ弱ラヌ所ハ元氣モノジャ。ソレデモ終ニサア大将ノ闘ヒブリヲ見テカヘレト云ウタ其大将ガ、バタ／＼負けテ、ゲ／＼ム、ツ／＼ゼロニナッタトキハヒツソリトシテ開イタ口ガフ

サガラズトイフ風デアッタ。関西〈学院〉ノ応援団ニ、モ  
 少シ即座ノ才能ヲハタラカセタカッタ。敵ガヤセタ〜ヨ  
 三日月ヤセタ、ヤセタ筈ダヨヤミ上リ、ト云ヘバ、ヤセテ  
 見エルカ三日月サマハ、ヤセタヤウデモ腕ガアル。敵ガ関  
 西学院ノ帽子ヲ見レバ、ヘタノヘノ字ガ書イテアルト云ヘ  
 バ、〈神戸〉高商選手ノ帽子ヲ見レバ敗北困ルト書イテア  
 ルト云フヤウニヤリ反スト大ニ宜イ。新開地三宮ハ応援隊  
 ニ対スル弥次デアッタガ、コッチカラ新開地三宮ト出タノ  
 デ無効ニナッタ。試合ハ最初木村〈亮次郎〉ト柘田ガゲーム  
 ツー、オールデヂユースヲ繰返シテ居タガ、其中ニ木村〈亮  
 次郎〉ノ打ッタサーヴガラインニ落チタノヲ副審ハセーフ  
 トシ正審ガアウトニシタノデ面倒ニナリ、暫ク中止ノ有様  
 デアッタ。正審ノ言分ハハイッタコトハ認メルガアウトト  
 見做スト云フノデアッタ。関西〈学院〉ノ方デハ讓ッテモ  
 ヨイガ屢々コレヲヤラレルカラ、讓ラヌト云フノデアッタ  
 ガ、到々此試合ヲノー、カウントニスルノデ折合ウタ。波  
 江野〈英一郎〉小野〈忠雄〉ハアガル。瀬尾〈一美〉モア  
 ガッタ。藤田〈守〉ハ初カラ六ヶ敷イト思ハレタ。福谷〈了  
 ノ組ハ初メコートニ慣レナカッタ所カラ失策多ク一点トラ  
 レタガ、一旦極ッテカラハ、バタ〜ト敵ヲ斃シ、敵ノ大  
 将モ殆ド手ノ出シヤウナク、今ニ斃レントシタ所デ、規定

ノ六時半ニナッタノデ、ドロン・ゲームトナル。

関西〈学院〉

〈神戸〉高商



時間サヘアラバ優退一組ヲ残シテ勝ッタラウト思ハレル

六月八日 日 雨 朝 (J・C・C) ニユートン氏説  
 教、イエス神ヲ顕ハセリト云フ題 (後略)

六月十日 火 曇 (前略) 夜祈祷会、柴田〈克己〉氏  
 司会 (後略)

六月十三日 金 風雨強シ 作文ヲ二時間ニ繰上ゲ午後

ナシ（後略）

六月十四日 土 曇 午後美津濃野球同志社トノ優勝試合（中略）野球ハ八対一ニテ優勝ス。神（戸）高商二十対一ニテ勝チタル大（阪）高（等）工（業）二十二対一デ勝ツタ同志社ヲ八対一デ破ルト、関西（学院）ト（神戸）高商ハ一対九百六十二ナル。

六月十五日 日 雨 礼拝大岩（元三郎）氏説教、向下ノ自覚、所々ニ惡イ記念ハ多イガ善念ガ少イト云フ何トカ云フ西洋人ノ語ヲ引イテ、例ノ中ニ天王寺駅カラ転宅荷物ヲ直接ニ神戸ヘ送りツケタ、ソレヲ灘駅デ運送屋ノモノガ無断デ揚ゲテ居タノデ、八釜敷ク云ウテ、家マデロハデ送ラセタハ随分ヒドイコトラスル人ジャ。惡イ記念ドコロジャナイ。

六月十六日 月 雨 朝大シタ雨ハ降ルマイト思ウテ行クト、案外降ツテ生徒ニ傘ヲ貸サレテモドル。講堂デ野球ノ祝捷会、選手ヲ壇ニ並ベテ応援歌フレー、是迄壇ニ上ツタコトノナイモノガ多数デ恥シゲニモデ、トシテ居ルノガワケテ目ニツク。

六月十七日 火 曇少雨 菊池（七郎）氏、夫人ガ病氣デ祈祷会ノ司会ニ来ラヌデ代リヨットメル。（後略）

六月十九日 木 曇 午後作文ヲ見カケタルガ、熱七度

六分アリ。（後略）

六月二十日 金 晴（前略）又三時ヨリ雄弁会ニ往キテ見ル。立石駒吉ト云ヘル人、政治ノ裏面ヲ談ジ、労働問題ヲ論ズ。

六月二十一日 土 晴 午後一時ヨリ教師会議、三時半ヨリ引続キ（R・C・）ア（ームストロング）氏送別会（中略）、神学一年試験。今日（神戸基督教）青年会館ニテ音楽会アリ。（後略）

六月二十二日 日 雨 風強シ。礼拝吉崎（彦一）氏説教、（後略）

六月二十三日 月 曇 午後文科一年代表四名来リ、クラス会ノコト其他ニツイテ談ス。（後略）

六月二十四日 火 晴 夜祈祷会、野々村（戒三）氏司会。  
六月二十五日 水 晴（前略）午後寿岳（文章）<sup>(68)</sup>生来リ暫ク話ス。鈴木某、大阪南坊住職ナドノ談ヲ聞ク。

六月二十七日 金 晴 朝講堂ニテ（R・C・）アーム（ストロング）氏ノ送別会アリ。後ニ写真ヲ撮リ第二時間ツブレル。

六月二十八日 土 晴後曇夜雨 伝道百年祝賀会、関西（学院）ニテアリ（後略）

六月二十九日 日 晴 礼拝河上（丈太郎）氏説教（光

タレ 塩タレ) (後略)

六月三十日 月 晴 〈R・C・〉ア〈ームストロング〉氏午後六時三十八分三宮発汽車ニテ帰国、(村上)八重謙介ト共ニ見送ル。(後略)

七月一日 火 曇後雨 講話成立祝賀会、八時ヨリ例ノテニスコートニテ有リ。真鍋(由郎)、(T・H・)ヘーデン二氏ノ聖書、岸波(常藏)氏ノ祈祷、松本(益吉)、(W・A・)デビス、大岩(元三郎)三氏ノ短話アリ。其後中学部ト増田屋トノ野球試合アリシガ、雨降り出シ中止トナル。庭球モ高等部校内試合アリシガ同ジク中止。夜祈祷会、神学部講習会ト衝突、早クスマス。後池田(多助)氏宅ニテ文学会アリテ出ル。

七月三日 木 雨 永井柳太郎氏、講堂ニ於テ。

七月五日 土 雨 学院終業、(後略)

七月六日 日 曇後晴 礼拝松本(益吉)氏、午後三時ヨリ(Ⅰ・)オゾリン氏送別会ニテカフエ、ブラジルニ往ク。祝賀式ニテ雑踏甚シ。花電車七台出ル。(後略)

七月七日 月 晴 朝十時(Ⅰ・)オゾリンヲ送ラント波止場ニ往ク。逢ハズ。(後略)

七月八日 火 晴 朝中学部ヲ訪ヒ司会者ノコト相談。重田(富吾)、石井(謙亮)、加藤(美江)氏ニ逢フ。其

ヨリ田中(義弘)氏ヲ訪ヒ、(中略)夜祈祷会、上井(義雄)氏後レ、黒石(正雄)ニ司会ヲ乞フ。

七月九日 水 晴 夕刻田中(義弘)ヲ訪ヒ、長谷(基一)ヲ訪ヒ、熊内ニ廻リテカヘル。午後神学生一池(安ノアヤマリカ)来訪。

七月十三日 日 晴 礼拝説教(成就セン為ニ来レリ)。

(後略)

七月十五日 火 晴 祈祷会、司会菊池(七郎)氏。(後略)

七月十七日 木 晴 午後四時ヨリ春藤氏宅ニテ中学部生徒ニヨリ開カレタル記念会(註 十四日死亡ノ中学部生徒春藤信男ノタメノモノナリ)アリテ往ク。

七月十九日 土 曇驟雨 (前略) 米沢高工ノ阿部(正治郎)氏(註 元普通科教師)来訪。

七月二十日 日 晴 大岩(元三郎)氏説教、寛容ニ就テト云フヤウナ題ナリ。

七月二十二日 火 晴 夜祈祷会、黒石(正雄)氏司会、午前内藤氏来訪、野々村(戒三)氏帰省スルト云ウテ見ユ。

七月二十七日 日 晴後曇雨 御影(教会)牧師村田(藤一)氏説教、品性ノ粗製濫造ヲ排ス。(後略)

七月二十九日 火 晴 祈祷会司会一安(諷)氏。

七月三十一日 木 晴 〈村上〉謙介今日ヨリ補習ニ出

ル。(中略) 野球大会十二時ヨリ関西〈学院〉伊丹〈中〉ノ試合アリ、往ク。殆ド練習気分ニテ悠々トヤリ七対〇、八回ゲームニテ勝ツ。(後略)

八月二日 土 曇後晴 午後一時ヨリ関〈西学院〉中〈学部〉ト神〈戸〉商〈業〉トノ野球試合六対一ニテ負ク。負ケル筈デハ無カッタノヲ、後レテ来テキャッチボール十分ニ出来ズ。投手ノ肩定マラズ、塁手ニモ失策等出テ一挙三點、次ニバースボールニテ一点トラレタノガ敗因トナル。(後略)

八月三日 日 晴 説教松本〈益吉〉氏、感話ニテ虚偽多キ世ヲ攻撃ス、(後略)

八月十日 日 晴 朝佐藤(註 使丁ナリ)<sup>(89)</sup>ガ何モ言ハズ帰国シテ仕舞ウタノデ〈関西学院〉教会ガ開カズ、バラックデ集ラスル。(後略)

八月十一日 月 晴 朝小野〈善太郎〉、野々村〈戒三〉、鈴木ヲ訪フ。〈関西学院〉教会ノ鍵ヲ搜シタレドモ不明。<sup>(90)</sup>

八月十二日 火 晴 (前略) 夜祈祷会、神学生林氏司会

八月十七日 日 雨 大岩〈元三郎〉氏説教、(後略)

八月十九日 火 晴 (前略) 夜祈祷会、〈村上〉謙介司会。

八月二十日 水 晴 午後〈村上〉謙介楨三ト共ニ鳴尾

ニ往ク。早〈稲田〉中ト関〈西学院〉中〈学部〉トノ野球試合アリ。十二回マデ継続シ四A三ニテ関〈西学院〉中〈学部〉勝ツ。夜ニ入りテカヘル。

八月二十四日 日 晴 朝礼拝、善キ方ヲ選ベト題シテ話ス。(後略)

八月二十六日 火 晴 夜祈祷会司会ス。五千人パンノ奇蹟ニツキ話ス。(後略)

八月三十日 土 晴 午後七時ヨリパルモアニ〈W・R・ランバス〉監督其他ノ歓迎会ト云フノガアツテ往ク。斯イフ会ニ出タコトハナイガ、〈W・R・ランバス〉ガ知人デ日本南メソヂストノ開拓者デアッタカラ往ク。所ガ七時ト云

フノガ九時前ニ始ル。ソレカラ例ノ通りニ会ガ始マリ、長谷〈基一〉ト日野原〈善輔〉ノ長タラシキ歓迎ノ言、〈W・R・ランバス〉其他四人ノ答辞ガアツテ、其カラ只一人ノ女ガ往タリ戻ッタリシテ茶ト菓子ヲ配ルト云フ呑気ナ、意味モ面白ミモナイ会、中途カラ帰ッタガ十一時デアッタ。(後略)

八月三十一日 日 晴 礼拝菊池〈七郎〉氏、独立ノ信仰ト云フ題、(後略)

九月二日 火 晴 (前略) 夜祈祷会、誰モ来ズ。朝鮮人某生ノ司会ナリシガ、共ニ祈リテ分レントスルトキ、小野〈善太郎〉夫人モ見エテ祈ニ加ハラル。

九月四日 木 晴 (前略) 武陽<sup>97</sup>ト野球対戦九対一ニテ勝タル由、見ズ。(中学部グラウンドニテ)

九月五日 金 晴 (前略) 神(戸)商(業)ト野球ノ試合ヲヤルト云フノデ往テ見ル。内海、北村、太田、山崎(数信)<sup>98</sup>、松本、柳田(周蔵)、近藤、栗田、本田ノ順ニテ内野ハ全部、右翼ト間ニ合セナリ。十対四ニテ勝ツ。其四ハ三塁ノバツスガ三回(内一回ハ一塁、一回ハ遊撃ノ高投、一回ハ捕球ヲヌカシタルナリ)一回ハ捕手ノバツスボール。九月七日 日 晴 松本(益吉)氏説教、凡ノ事感謝スベシ。(後略)

九月九日 火 曇後雨 午前寿岳(文章)氏来訪、午後ヨリ頭痛甚シク熱アリゲニシテ且ツ天気良カラザルヲ以テ祈祷会ヲ欠席シ(中略)早ク寝ル。

九月十一日 木 雨 学院始業式、引続キテ教師会議アリ、(後略)

九月十四日 日 曇 朝礼拝裏ノ人ノ題ニテ話ス。(後略)

九月十五日 月 曇 午後チエツク兵来リテオーケストラ及唱歌ヲヤル。名手ニハアラザレドモ、手ニ入ッタモノナリ。(後略)

九月十八日 木 晴曇不定 午後豊中ニテ野球、(大阪)

薬専二十七対一ニテ勝ツ。(後略)

九月二十日 土 晴 (前略) 午後高等部トチエツクトノ蹴球戦アリ、一対〇ニテ負、(後略)

九月二十一日 日 晴 朝大岩(元三郎)氏説教、午後平松(金次)<sup>99</sup>氏来訪。豊中ニテ大(阪)高商ト優勝戦、二十対二ニテ勝ツ。

九月二十三日 火 晴 朝曾木(銀次郎)<sup>99</sup>氏ヲ訪フ。(中略) 午後青谷ヨリ上野ニ廻リ佐藤(清)氏ヲ訪問シテ帰ル。不在ナリキ。夜祈祷会、(関西学院)教会ノ牧師代理田中(義弘)<sup>100</sup>氏ニ定マル。

九月二十四日 水 晴 (前略) 関西学院ニ中等学校庭球試合アリ、見ズ。御影(師範)優勝ノ噂ヲ聞ケリ。

九月二十五日 木 晴 (前略) 早(稲田)実(業)ト(関西学院)中学部ト野球試合アリ。十二A対三ニテ(関西学院)中学部勝ツ。其最後八回表ハ真暗ノ中ニテ試合シ、打者ニハ格別ノ妨ナケレド守ルモノハ全ク守レズ。投ズル球ハボールニナリ、打タレタ球ハミスニナル。是デ二点トラレタルナリ。故ニ弥次非常ニ八釜數ク言ヒ出セリ。彼七回ニテ中止セント云フ、我提議ニ応ゼザリシナリ。

九月二十八日 日 晴 曾木(銀次郎)氏説教、(後略)  
九月二十九日 月 曇 授業スム。宿題作文ヲ見ル。夜

二入ル。

十月三日 金 曇 採点ニテ日暮ル。(註 翌日も同記事)

十月五日 日 曇 東風強シ。松本〈益吉〉氏説教(二ノ誠)(後略)

十月七日 火 曇 (前略) 夜祈祷会 吉崎〈彦二〉氏祈祷司会。(後略)

十月九日 木 晴 試験済ム。後ニテ教師ノ相談会アリ。増給ノ建議案ナリ。

十月十一日 土 晴 (前略) 午後新任教師歓迎会ニテ(J・C・C・)ニュートン氏宅ニ往ク。後カラ聞ケバ大岩〈元三郎〉ニハ二日計前手紙ニテ言ウテ往タラシ。スルト誰カ他ノモノガ往カヌデ、云フテ来タノカ。或ハ忘レテ居タカナラン。然ウト知ツタラ往カナンダノジャニ、残念ナリ、ト云ウテモ、今日ハ八釜敷キコト云フ積リナタシガ、日暮レテコレモ云ハズ。

十月十二日 日 晴 朝礼拝ノ談ス(主ノ祈、一)。齒痛ミ大ニ弱ル。午後西山〈広栄〉氏ヲ大岩〈元三郎〉、池田〈多助〉両氏ト共ニ訪フ。帰路電車ニ乗レズ、瀧道マデ徒歩ス。

十月十三日 月 晴曇 午後採点忙ガシ。

十月十四日 火 晴 夜少シ熱アリ、祈祷会ヘ往カズ。

十月十五日 水 晴 (前略) 啓明寮記念日ニテ芝居ナドアリテ賑フ。予〈村上博輔〉留守居シテ皆行カス。(中略) 中学部野球〈神戸〉ニ中二三対一ニテ勝ツ。扇港大会ノナリ。場所ハ板宿。

十月十六日 木 晴 朝礼拝ノミニテ休トナル。予〈村上博輔〉在宅、講義ヲ書ク。(後略)

十月十七日 金 晴 学院運動会。昨日以来天気良ク、人出甚多シ。今年ハ予〈村上博輔〉記録係タリ。昼飯ハ弁当ニテ済マシタ刻帰ル。立ヅメニテ弱ル。運動大抵昨年ノ如シ。〈村上〉楨三五哩マラソンニ出ル。中学部ノ絵画展覽会今年ヨリ始ル。

十月十八日 土 晴 学院休ミ。雲中運動会例ノ如シ。神学部ト同志社神学部トノテニス午前、野球午後。テニスヲ見ル。同志社勝ツ。二時ヨリ(J・C・C・)ニュートン氏ニ会見(例ノ委員一同)、請願書ヲ交ス。関〈西学院〉中〈学部〉対神港〈商業〉ノ野球ハ八対〇ニテ勝ツ。(後略)

十月十九日 日 晴 朝田中〈義弘〉氏説教、満三十年ノ関西学院トカ云フヤウナ題ナリキ。午後扇港野球大会優勝試合、〈神戸〉一中対関〈西学院〉中〈学部〉、板宿ニテアリ。関〈西学院〉中〈学部〉二対〇ニテ勝ツ。但シ行カズ。



十月二十一日 火 晴 (前略) 突然チャペルノ話ヲサセラル。

十月二十二日 水 晴 (前略) チャペルニ加藤直士氏<sup>(106)</sup>ノ講演アル筈ニテ忙シ。(中略) 談ハ戦争雜感ニテ一時間カ、ル。故ニ神学部ノ仏教休トナル。(後略)

十月二十三日 木 晴 (前略) 夜野々村(戒三)氏ヲ訪フ。(後略)

十月二十四日 金 曇 (前略) 文科ノ作文三時間ニ繰上トナル。(中略) 同志社大学トノ柔道試合アリテ見ニ行ク同志社ノ選手ハ実ニ穢イ。ソレニ審判者(彼等ノ教師)ガ非常ニ横着ナルコト、先度ノ剣道試合ノトキニ劣ラズ。尤モ彼ハ二段三名、初段六名ヲ以テ来リ、必勝ヲ期シタルニ、思フヤウニ往カザルヨリ九死一生ノ体ナリシナラン。但シ我戦士ハヨク戦ヒ引分トナリテ終ル。

十月二十六日 日 晴 大岩(元三郎)氏説教。(後略)

十月二十七日 月 晴 時間割変ル。二年級知ラズ、教科書ヲ持参セザルノ故ニ休ム、(後略)

十月二十八日 火 晴 夜祈祷会ニ行ク。吉崎(彦一)氏司会、(後略)

十月二十九日 水 晴 午後( J・C・C・ ) ニュートン氏宅へ会合アリテ往ク。夕刻帰ル。(後略)

十月三十日 木 晴 朝九時ヨリチャペルニテ( W・R・ランバス氏ノ談話アリ。<sup>(107)</sup> 今後ノ人ハ事ヲ明ニシリタルモノナルヲ要ス。鋭キ耳、目、頭ヲ具フルモノナルヲ要ス。

―大決斷アラザルベカラズ、―友情アルモノヲ要ス、―インスピレーションノ人タラザルベカラズ。―時ヨリ多く、同情ヨリ多大、云々。午後一時ヨリ文学会アリ。沖野岩三郎氏<sup>(108)</sup>ノ談アリシガ往カズ。三時ヨリ学生会館ニテ( W・R・ランバス氏ノ歓迎会。( W・R・ランバス氏談ヲナス。其中仏国ニテ人民ハ天主教ニ対シテ敬意ヲ減ゼリ。新教徒ハアレドモ活動ナキガ故ニ米人ノ来リテ實際の基督教ヲ表ハサンコトヲ願フト云ヘルト、キツドガ<sup>(109)</sup> 独逸ヲ評シテ、独力ハ其力ヲ用キマジキ所ニ用キテ此失敗ヲ招ケリト云ヒシコト、又露国ニハ希臘教ノ会堂ヲ酒屋ニ貸シテ居ルモノガアルナドノ事ヲ云ヘリ。夜同氏ヲ三宮ニ送り帰リテ野々村(戒三)氏宅組会ニ出デ、カヘル。(後略)

十月三十一日 金 雨 天長節、講堂ニテ式アリ。生徒多ク集ラズ。此傾向憂フベシ。日本人ハ根底ナク、風ニヨリテ自由ニ吹廻サル。此頃デモクラシーノ風ガ吹イテ、飛ンダ所ヘモ影響シタルカ。ソレトモ近頃金ノ勢力ニ目ガクレテ、人道ヲ忘レタルカ。商勢ハ人ヲ殺スト昨日( W・R・ランバスガ云ヘルハ是ナリ。金デ人物ハ買ハレズ、金ニ心

ヲ奪ハレタル国民ハ不幸ナリ。午後剣道大会ヲ観ル。日暮ニス。

十一月二日 日 晴 札拝岸波<sup>(10)</sup>〈常蔵〉教授<sup>(11)</sup>（素養アル生涯）。〈中略〉夜東征野球部出発ス。

十一月三日 月 晴 〈前略〉昨日同志社ニ於テ庭球試合、各組ミナ優退ニテ奇麗<sup>(12)</sup>ニ勝タル由。

十一月六日 木 晴、〈W・A・〉<sup>(13)</sup>デビス氏帰国ス。〈村上〉謙介<sup>(14)</sup>〈中略〉榎三ト共ニ灘駅ヨリ汽車ニテ三宮ニ至リ、送リテカヘル。月殊ニ佳ナリ。サレドモ病人ヲ望ンデカヘル〈W・A・〉デビスノ心ニハ暗雲ノ霽間モナカラン。

十一月七日 金 曇 〈前略〉今日バプチスト派ノクロス博士<sup>(15)</sup>トカ云フ人ノ話アリ。詰ラヌ話ニテ一時間消滅ス。

十一月八日 土 晴 今日雄弁会アリシガ往カズ。夜カフエ・ライオンニ短歌会アリ、〈村上〉謙介往ク。<sup>(16)</sup>〈後略〉

十一月九日 日 晴 〈J・C・C・〉<sup>(17)</sup>ニュートン氏説教。<sup>(18)</sup>〈後略〉

十一月十日 月 晴 天皇陛下須磨ニ御臨幸、午後二時ヨリ東灘停車場ニ奉迎ス。後大岩<sup>(19)</sup>〈元三郎〉氏ト共ニ〈J・C・C・〉ニュートン氏ヲ訪ネテカヘル。教師数名会議ノ件アリテ招カレタルモノナルガ、誰モ来ラズ。

十一月十一日 火 晴後曇 午後小沢<sup>(20)</sup>〈瀟〉氏ヨリ弓ノ

文ヲ見テクレト謂ハレテ晩クカヘル。〈中略〉今日増加金モラフ。<sup>(21)</sup>〈後略〉

十一月十三日 木 晴 朝三時ニ起キ、〈村上〉謙介榎三ト共ニ灘駅ニ至リ、汽車ニ乗リテ西宮マデ往キ、学院生徒ト共ニ廣田方面ヨリ門戸ニ至リ、上ノ山ニ登リ、大演習ヲ見ル。所ガ東軍<sup>(22)</sup>（十師団）、巧ニ退却シスギテ、武庫川以西ニハ二個大隊ヲ留ムルノミ。ソコデ戦争ナシ。大砲二ツ三ツ打ち合ヒ、後ハ戦闘隊形ヲ以テ進ムノヲ見テ帰ル。

十一月十四日 金 晴 東西学生雄弁大会、神戸<sup>(23)</sup>〈基督教〉青年会館ニテ開カル。午後ヨリ往ク。夕飯ヲヨバレテ、加藤直士ノ講演マデ聞キタルガ、今日〈村上〉八重発熱臥床セルヲ以テ帰ル。〈村上〉謙介帽子ト下駄トヲ盜マル。

十一月十五日 土 晴 二時半ノ汽車ニテ〈村上〉榎三觀兵式ヲ見ニ行ク。灘駅マデ連レテ行キテ帰ル。雨降り居シガ日出ルト共ニ快晴トナレリ。

十一月十八日 火 曇小雨 商科ニ商科会ヲ開ク。〈中略〉夜祈祷会、柴田<sup>(24)</sup>〈克己〉生司会。

十一月二十三日 日 晴 〈前略〉〈東〉遊園地ニ〈神戸〉高商トノ野球アリ、四対〇ニテ勝ツ。

十一月二十四日 月 晴 午後郵便局ニ往キタルトキ、増井<sup>(25)</sup>〈光蔵〉、池田<sup>(26)</sup>〈多助〉氏ニ出逢ヒ、商科ノコトニツ

キ増井〈光蔵〉氏ノ宅ヘ帰リテ相談、其ヨリ〈J・C・C・ニユートン氏ヲ訪フ。〉(後略)

十一月二十五日 火 晴、野々村〈戎三〉氏〈高等学部長〈代理〉ヲ止メ、〈J・C・C・ニユートン氏之ニ代リタル旨発表アリタル由ニテ生徒ノ間ニ総会ノ如キモノヲ開キ、三時間マデ業ナシ。午後教師会議。日暮二及ブ。夜祈祷会ニ行ク(松本〈益吉〉氏司会)。

十一月二十六日 水 晴 (前略) 夜木村〈禎橘〉氏ノ送別会、元町日ノ出ニテアリシガ往カズ。

十一月二十八日 金 晴 午後文科ノ相談会ヲスル。後〈J・C・C・ニユートン氏ヲ訪ヘルガ不在。夜小野〈善太郎〉氏宅ニテ組合、往クノガ遅クナル。風強ク吹ク。

十一月二十九日 土 曇 午後池田〈多助〉氏ト共ニ、〈J・C・C・ニユートン氏ヲ訪ヒ、文科ノコトニ就キ談ズ。其相談ノ代リニ明日兵庫(教会ナリ)ノ話ヲ頼マル。

十二月二日 火 晴 (前略) 夜祈祷会、神学生伊藤司会。十二月五日 金 晴 午後四季会神学部教員室ニテアリ。

(後略) 十二月六日 土 晴 午後一時半ヨリ教師会議アリ。夕飯モ済ミ七時過マデカ、ル、(神学部ノ教員室ニテ) 十二月七日 日 晴 久保田氏説教。〈神戸〉高商トテ

ニス試合アリテ負ケル。見ニ行カズ。応援ノ場所ヲ彼等ガ全部占領シテ矢次リタルヨリ、アガリタルカ。

十二月九日 火 晴 夜祈祷会ヨリ帰リシトキ、吉岡美国氏来訪。〈文〉科長ノ談アリ、辞ル。

十二月十三日 土 晴 市田〈写真館〉ヘアルバムノ写真ヲトリニ行ク。外岡〈松五郎〉、菊池〈七郎〉、新井〈謹也〉氏ト一緒ニナル。

十二月十四日 日 晴 朝〈関西〉学院教会ニテ主ノ祈(二)ト題シテ話ス。祈祷会菊池〈七郎〉氏司会。

十二月十六日 火 曇 (前略) 朝チャペルニ講演アリ。二時間休トナル。神学部今日ヨリ試験。

十二月十八日 木 晴 神学比較宗教及〈神学部〉別科一年ノ試験ヲスル。

十二月二十日 土 晴 少シ暖ナリ。神学予科一年ノ試験ヲスル。前答案及点数吉崎〈彦二〉氏ニ渡ス。〈村上〉楨三試験スミ(後略)

十二月二十二日 月 晴 午後相談会アリテ、教員室ニ集ル。雑談ニ過ギザリキ。

十二月二十五日 火 晴 学院今日ヨリ済ム。午後六時ヨリ学生会館ニテ〈関西学院〉教会クリスマス。 十二月二十八日 日 曇 小野〈善太郎〉氏説教(感激

ノ一年)。午後在宅ス。

十二月三十一日 水 曇 (前略) 帰りテ直チニ除夜祈  
禱会ニ出デ司会ス。現在ハ基督教ノ外諸信仰ノ頼ムベカラ  
ザルヲ示ス。諸人何レモ其立場ヲ失ハントス。伝道ノ必要  
ト其機会トヲ見ルベキヲ勸ム。

大正九年

一月一日 木 曇時々日照ル (前略) 関西学院ノ拝賀  
ハ終業式ニ( J・C・C・C ) ニュートン翁ハ独断デ八時カ  
ラ専門部ノ式ヲ別ニ行フト広告シ、小沢(瀧)庶務ハ九  
時カラテニスグラウンドデ合同デヤルト揭示シタツイフ矛  
盾ノ報知ヲ受ケタノデ、慶事ハ延バセト、決シテ早イ方ニ  
ハナラヌモノト信ジテ、独断デ九時前ノ見当デ出懸ル。所  
ガ此間休ミノ間ニ時計ガ馬鹿ニ進ンデ居タノデ、マダ九時  
ニハ二三十分アル。揭示場ニハ三部合同新年祝賀式午前九  
時ヨリ講堂ニ於テ行フト、小筆デ書イタ大字、而モ楷書デ  
張出シテアル。矢張り我々ノ言フヤウニナツタナト思フテ  
居ルト、小沢(瀧)氏が飛ンデ来テ、( J・C・C・C ) ニュ  
ートンハ揭示ノコトハ知ラス。誰ガ独断デ然イフコトヲ為タ  
ノカ、矢張り八時カラヤルトイウテヤルトイフ。言ウタツ  
テ仕方ガナイ、( J・C・C・C ) ニュートン一人ガ高イ処

ニ立ツテ君ガ代モ歌ハレマイト、(中略) 中学部ノ前カラ  
返ツテ式ニ列ル。祈禱ヲシテクレヨトイフノデ承諾スル。  
頌歌。讚美歌。祈禱。聖書 真鍋(由郎)、( T・H・ ) ヘ  
ン。勅語松本(益吉)。君ガ代。讚美歌、祈禱小野(善  
太郎)。頌歌、小野(善太郎)ノ祝禱デ講話ガ無い。君ガ  
代ト讚美歌ト続イタトコロヲ見ルト、其間ニ誰カソレヲ頼  
マレテ居タモノト思ハレルガ、独断デコレモ休ンダラシイ  
中心ノ無イ式ニハナツタガ、手短ク済ンダ所ハ千両(後  
略)

一月四日 日 曇時々日光射ス (前略) (関西学院) 教  
会ハ小野(善太郎)氏説教、新年ノ靈幻トイフ題デアッタ  
ガ、別ニ面白イ話デモ無カッタ。然シ世人ガ心配ヤラ絶望  
ヤラニ囚ハレテ居ル一方ニ、靈幻ニ由テ活キルコトノ出来  
ル我々ハ幸ナモノデアル。帰路時実(佐平)氏ニ家ヲ聞イ  
テ、奥田(勲)氏ノ宅ヘ年頭ニ行ク。(後略)

一月六日 火 曇午後半晴トナル 神学(部)別科三年  
生デ二年ノ三学期ノ試験未了ノ者ヲ追試験スルカラ、問題  
ヲ出シテクレヨトイウテ、昨晚吉崎(彦一)君ガ来タノデ、  
今朝問題ヲ書イテ渡ス。教科書モ何デアツタカ、ド忘レシ  
テ居ルトイフヤウナ始末、孟子ノ中カラ四問ヲ選ンダ。何  
ウセ出来ハシナイ。形式上ノ試験デアル。試験ヲ大切ニス

ルノナラ試験ガ済ムマデ進級サセネバ宜イ。既二三年級ニ昇シテ、二学期間モヤラセタモノヲ、今出来ヌカラトテ二年級ニ落スワケニハ往カヌ。学科ノ出来ヌノハ始カラ判ツテタル。ソレニ出来タ点数ヲ与ヘテ、ツマリ帳面ノ上ヲキチントサスノジヤ。人間トイフモノハ詮ランコトニ余計ナ力ヲ用ヰルモノジヤ。(中略) 午後湯ニ入ッテ氣持ガ悪イヤウナデ、今晚ノ祈祷会ヲ休ム。

一月八日 木 晴午後クモル 始業式九時カラ(J・C・C・ニュートン氏ノ短話アリ。祈祷ト祝福ヲタノマレテスル。中学部ノ始業式場ヘノゾイテ見ル、(後略)

一月九日 金 薄曇日光洩ル、今日ヨリ業始リタレドモ、教師ノ出席スルモノ予(村上博輔)ノ外二人、学生モ欠席多ク甚ダ整頓セズ。ソレニ書記小使全部新顔ニテ火ノナキ火鉢アリ。鎖カレタル教室アリ。是デハナラヌト思フト、池田(多助)、上阪(泰次)氏ノ如キモ、皆(神戸)一中ヤ何カヘ兼務シ、時間割ガ作レヌト小沢(渡)氏コボシ居レリ。ダメナリく今暫クハ駄目ナリ。其中神ノ惡ニテ事新ニナル日アルベシ。文科一年一同午後マデ居残リタリ。田家早梅ノ題ニテ詩デモ文デモ自由ニ作ラス。(後略)

一月十日 土 晴 群雲アリ 朝チャペルノ時間ニ(R・スミス氏ニ頼マレタ広告ノタメニ出掛ケル。(中略)

今日(J・C・C・ニュートン氏カラ教授一同へ手紙ヲ配ル。病氣ニ妨ゲラレザル限り、十二日カラ出席セヨトイフノデアル。三宅(嘉策)氏ハ嘗テ(J・C・C・ニュートン)ハ非常ニ名譽心ノ強イ人ジャト批評シタガ、是ハ適評デ、而モ其ハ大将ニナツテ人ヲ指図シテ見タイ。人カラ奉ラレテ見タイトイフ、小兒ガ演劇ヲシテ殿様ニナリタガルヤウナ名譽心ジヤ。其名譽心カラシタノカ、年寄ノ癖トシテ為タノカ、兎ニ角余計ナコトヲシタモノジヤ。十二日デハナイ、八日カラ出席スルコトハ誰モヨク知テ居ル。知テ居テ出ヌ奴ハ此手紙ヲ貰ウテモ出ヌデアラウ。出ル奴ハ手紙ガ無クテモ出ル。而シテ総テノ教授ハ病ノ為ニ妨ゲラレルニアラズシテ、欠席スル、サヤウナ人デ有ラスデアラウガ故ニ、出席シ能フダケソレダケ多クハ、十二日カラ彼ノクラッセスニ会フデアラウ。其ヲ執ヘテ己ガ命令ノ功果トシテ鼻ビクくトサセウトハ罪ノ無イ話ジヤ。老仙ノコトヲ形容シテ童顔ナドトイフコトガアルガ、此親仁童心ジヤカラ今一段上ジヤ。

一月十一日 日 晴雲アリ 朝小野(善太郎)氏ノ説教、汝何ヲ見ルヤ、トイフ題ハ米国大会ノ報告ナリ。コレハ新聞ナドデハ見ラレヌ世界ノ潔キ一潮流ジヤ。文明ヲ建設シテ行クモノハ実ニ此潮流ジヤ。(後略)

一月十二日 月 雨 (前略) 今夜カラ初週祈祷会ジャガ、雨ガ強イノデ休ム。

一月十三日 火 雨 沖野岩三郎ガ来テ何カ話スカラ休ムトイフノデ、十時半カラ帰ル。午後行クト其話ガ今カラニナツタ。商科モ聞クカラ休ムトイフ。午前ハ科業ガ有タカト聞クト有ツタ、知ラスノヲ忘レテ居タトイフ。何ヲシテ居ルノカ理由ガ判ラン。元来沖野(岩三郎)ノヤウナモノガ来タトイウテ、予定デモナクッタ休暇ヲスルナドハ、堂々タル学校ノ態度デハナイ。(後略)

一月十七日 土 曇 中学部モ高等部モ向フ一週間ノ休ニナル。(村上)謙介来ル本、昨日<sup>へしか</sup>二到着シテ高等部ノ箱ヘ入レテ置イタトイフノガ、何ウシテモ知レヌ。チヨロマカシタモノモアルマイガ。(中略)夜祈祷会ノ司会ス。(H・F・)ウヅウオース氏<sup>(30)</sup>奨励、萬国伝道ノ題ナリ。今夜始テ出席ス。(後略)

一月二十日 火 晴 少シク雲アリ。今日ヨリ筒井校<sup>(31)</sup>其他神戸市ノ諸学校モ休ニナル。(中略)夜祈祷会ニ往ク。小野(善太郎)氏司会。大成伝道<sup>(32)</sup>ノ為ニテ祈ル。帰ルトキ少シク立話ス。友人カラ野二出ヨト勧めテ来タ。(J・C・C・)ニュートンガ時機デナイトイウタ。伝道ノ効果ガ見エヌ。即チ信者ノ出来タ数ガ少イトイウタモノガアルトイ

フヤウナ話。此次ノ日曜ノ話ヲ頼マレル。

一月二十二日 木 雪時々降りテ過グ雲 朝起キテ見ルト一面ニ雪ガ積ンデ居ル。(中略)神学部ハ中学グラウンドデ十時半カラ上級対下級生ノ雪合戦。十一時カラ業ガアルノデ往テ見ルト、休デアツタ。欠席者ヲ差引イテ二十六七人位、ソレガ東西カ南北カ二分レテアノグラウンド<sup>(33)</sup>デホタヘタラ、敏馬ノ沖ニ<sup>(34)</sup>鰐網ガ却レタ位ニシカ見エヌデアラウ。(後略)

一月二十四日 土 曇 文科教授ノ相談会ガ有ツテ一時カラ学院ニ行ク。斯イフ会デモ(J・C・C・)ニュートン翁ガ出テ来テブレサイドスル。マルデ必要ノナイコトラ、初二村上サン祈祷ヲ：佐藤サンノ御意見ハ：御賛成ナラバ挙手：トイウタヤウナ調子。ソレガ、「ソイツァ面白クナイナア」：マルデ馬鹿ダア：何ガ何ダカ分ラナイ：トイフヤウナ相談ノ間ニ、横合カラボキ<sup>(35)</sup>リ、トハイルノダカラ滑稽ジャ。笛吹ケレドモ躍ラズトイフコトガアルガ、斯イフ議長デハ誰モ縮ルマイ。四角四面モ事ニヨル。(J・C・C・)ニュートン翁ハ食事ヲスルニモ、ナイフヲ直角ニ落スカモ知レン。相談ガ済ンデカラ、ハミル館ヲ見テカヘルコンナ会ホド詰ランモノハナイ。(後略)

一月二十五日 日 曇 朝学院礼拝デ主ノ祈ノ第四回ヲ

話ス。(後略)

一月二十七日 火 半晴 今日文科ノハミル館ニ於ル開館式アリ。<sup>(13)</sup>佐藤〈清〉増井〈光蔵〉二氏ノ聖書、岸波〈常蔵〉氏祈祷、予〈村上博輔〉及〈C・J・L〉<sup>(14)</sup>ベーツ、<sup>(15)</sup>〈T・H・ヘーデン〉二氏ノ談アリ、午後文科ノ教師会アリシガ行カズ。(後略)

二月二日 日 雨 (前略) 〈J・C・C〉ニユートン氏ヲモ一寸見舞ウタガ不在デアッタ。左ノ腎臓ガ患イト聞クニ注意シテ居ルノカ知ラン。今夜カフエー、オリエントニ独逸兵送別ノ音楽会アリ。学生有志ノ催ノ由。〈村上〉謙介行キ独逸語ヲ能ク話スモノ無カリシヲ以テ、早速頼マレ開会ノ辞送別ノ辞ナドヤリ、俄ニ彼等ト心易クナリ、大騒シテ帰ル。

二月五日 木 雨 (前略) ソレト作文ノ添削トガ、先ツ今日ノ纏ツタ仕事。(後略)

二月六日 金 半晴 午後曇ル。(前略) 夜神学館ニテ、平岩〈愼保〉鵜崎〈庚午郎〉<sup>(16)</sup>二人ヲ迎ヘテ慰勞ト歡迎ヲヤル。シツボクト巻鮓会費八十錢也。齒ノ痛ガ無カッタラ甘ウ食ハレタデアラウニ。平岩〈愼保〉ハ監督ヲヤメテ東京ノ未信者ニ道ヲ伝ヘントシ、日比谷ト日本橋区ノ何処トカニテ、毎日路傍説教ヲヤリ、夜ハ訪問伝道ヲヤツテ居ル

トノ話、感心ナリ。今迄ノ監督本多〈庸一〉<sup>(17)</sup>デモ鵜崎〈庚午郎〉デモ出来ヌコトナリ。コレデ碎カレテ角ガ取レタラ、大ニ用キラレデアラウ。鵜崎〈庚午郎〉ガ三代目ハ破産サスカモ知レント言ナガラ、本多〈庸一〉ヲ〈徳川〉家康ニ、平岩〈愼保〉ヲ〈徳川〉秀忠ニ、己ヲ〈徳川〉家光ニ擬シタノハケツガ笑ウテ胸ガ後ヲ向イタ。此命ノ下ツタトキ、バウロノ所謂血汐ニ謀ルコトヲセズシテ受ケタモ臍茶ジャ。代議士ノ候補者ガベコくヲヤツタ揚句当選シテ、市民ノ好意ニ酬ヒンガタメニ敢テ起ツツイフ格力。富籤ガアタツタトキ、血汐ニ謀ルモノハアルマイ。此男技量ガ有ツタラ疾クニ教会ニハ尻ヲマクツテ居ル奴ジャガ、幸ニシテ世間ヘ出テ事ガ出来ルホドノ技量ガナイノデ、死ンデ外ノ暗キニ投出サレルマデハ、信仰ノ面ヲ被ツテ居ル。

二月七日 土 曇 午後独逸兵ト関〈西学院〉高〈等学部〉、御影〈師範〉聯合ニテ蹴球ノ試合アリ。余リ寒カリシタメ、中途ヨリ帰ル。四対一ニテ敗ル。其一モゴールノ前デフリー、キックアリタルタメナリ。大分差ガアル。

二月八日 日 曇 雪チラツク。平岩〈愼保〉ノ説教、初カラ終マデ何モ聞エズ、勿論祈祷モ報告モ。(後略)

二月九日 月 晴午後曇 三時ヨリ教師会議、試験ノ日割ヤラ何ヤラ、下ラヌ相談、〈J・C・C〉ニユート

ン辭職シテ（H・F・）ウヅウオース代理部長トナル。昨年末学生ヲ勝手ニ処分シタコトニツキ、佐藤（清）氏ノ質問アリ。当事者悪カッタトイフベキ所ヲ悪クナイト言ヒタルヨリ、一寸モメルガ、将来ハ何如イフ風ニスルカ、極メテクレヨトイフ事ニナツテ、部長ハ自己ノ権能デ、必要ガアレバ問フガ、必要ガ無ケレバ勝手ニ処分スルトイフ。ソレナラバ教授会ハ生徒ノ処分ヤ風紀ノ上ニ責任ハ負ハヌゾトイフト、（J・C・C・）ニユートン第一二口ヲ出シテ、宜シイ其責任ハ我々が負フトイフ。佐藤（清）氏其心得違ニツキ少シイフ所ガアッタガ、オライトイフ風ニ首ヲ振ツテ聞クトモセヌ。デ、事ハ極ツタ。非ヲ遂グルトイフコトハ元来小人共ノスルコト、要スルニ彼等ハ小人、人ノ上ニタツテ指導ナド出来ルヤウナモノデハナイ。又此專斷の気分トイフモノガ、従来ノ学院ヲ鈍ラセテ居タモノデアルガ、此分デハ将来モ一寸浮ブマイ。少シハ釜敷ク言ハウカト思ウタガ、皆放トケトイフカラヤメタ。其放トケノ意味ハ<sup>（マツ）</sup>氣唐ニ分ルマイ。

二月十日 火 半晴 記事ナシ（チャペル突然合同トナル、（高等学）部長異動ニ付）（後略）

二月十一日 水 半晴雪チラツク 九時ヨリ拝賀式。小野（善太郎）氏ノ話アリ。（後略）

二月十四日 土 曇 木村禎橘氏十一時二伊予丸へ乗込ム。授業ノ都合上送りニ行カズ、（村上）謙介往ク、出帆ハ明日ニ延ビタリトイフ。<sup>（10）</sup>（後略）

二月十五日 日 曇 礼拝ハミル館ニテアリ。洗礼七八名アリ。（村上）楨三入会ス。<sup>（10）</sup>小野（善太郎）氏説教、晚餐式アリ。今日ハ教職ノモノ先ニ列ス。（後略）

二月十六日 月 晴風寒シ 午後岩屋ニ志賀<sup>（19）</sup>（勝）生ヲ訪フ、（後略）

二月十七日 火 晴 暖ニシテ春ノゴトシ（前略）桑原興<sup>（10）</sup>ニモ書キタレドモ宿所知レザルヲ以テ出サズ。夜折<sup>（19）</sup>（勝）生會ヘ往カズ。

二月十八日 水 曇小雨夜晴ル、七時ヨリ（H・F・）ウヅウオース氏ノ宅ニ高等部ノ世話方ダケ招カレ晚餐会、ソレカラ一ツ二ツノ相談アリ。雪隠ノコト、校内ノ通行カラ禁ゼネバキレイニナラス。通行禁止、番人ヲ置イテモハ釜敷イハネバ駄目、チャペルニ生徒ヲ出サス方法、教師ノ人間問題ジャカラ、相談ガ六カ敷イ。

二月十九日 木 曇 午後文科ノ相談会ガアルカラ集レトイフノデアッタガ、予（村上博輔）一人、留守番ガナイノデ後レテ往ク。商科ノ教員室ニ三四通ノ手紙ガ置イテアツテ受取ツタガ、其中一ツハ十二月二日ニトロントノ



消印ガアル（R・C・）アームストロング氏ノ年賀端書、八十日程カ、ツテ居ル。其一ツハ本月二日福山ノ消印、ソレガ切手ヲ外シテ居ルノ御影デ捺シ直シタノガ、翌三日ノ消印、スルト御影カラコ、マデ十六日カ、ツタ訳、八釜敷ウイウテモ仕方ガナイトアルト、世ハ末路、大国主命以前ニ返ツテ来ルヤウナ氣ガスル。

二月二十日 金 曇 午後四季会ト教師會議トアリ。先約ニ従ツテ四季会ノ方へ出ル。其後田中（義弘<sup>14</sup>）ヲ見舞ニ行ク。今日少シ水ガトレテ、ヨイトイフコト。

二月二十一日 土 曇 午後四時ヨリ中山手（ノ神戸基督教）青年會館ニテ中学部ノ講演大会アリ。六時ヨリハミル館ニテ神学部ノ文芸会アリ。（村上<sup>15</sup>）八重少シク病氣、何方ヘモ往カズ。（中略）午後山本生木頼トイフ今年入学シタイトイフ人ヲツレテクル。

二月二十二日 日 曇 午後雪フル。（T・H・）ヘーデン氏ノ説教、ハミル館ノ前デ、息子ヲ入学サセタイトイフ親仁（<sup>16</sup>）カライロ（ノコトヲ聞カレ、遅クナツテ半分位カラ先ヲキク。（後略）

二月二十三日 月 曇 朝雪積ミタリ、森ノ眺ヨシ。文科ノ礼拝ヲ司ル。九時二十分頃（池田多助文）科長其他来ル。生徒ヲ奨励シテモ、教師モハズンデ居ラヌノジャカ

ラ、チャベルハ困ル。

二月二十四日 火 曇 午後雪降ル。（神戸基督教）青年會ノスワン<sup>16</sup>トイヘル人来テ、礼拝ヲ合併ス。昨夜桑原興死去セルニヨリ、午後三時奥平野ノ下宿、冲憲<sup>17</sup>トイフ家ニ至リ遺族ノ人ニ面会シテカヘル。火葬場マデ往クツモリナリシガ時間未定トイヒ、親族ノ人モ好マヌ風ナレバ辞去シタルナリ。卒業試験ノ成績記入、今日マデナレドモ、未ダ不明ノモノアリ。合算セズ。（後略）

二月二十五日 水 曇 午後三時ヨリ（J・G・）シムス氏宅ニテ教師會議、卒業（試）験ノ成績調べガ主要ナル仕事ナリ。落第者文科小田切平和、商科村田成雄、守安貞雄、柳瀬貞ノ三人、未定文科由木（康）、大島（隣三<sup>18</sup>）、商科中村治三郎。日ガ暮レテ帰り、食事ヲ済スト、矢田部生尋ネ来リ。（神戸）神学校ニ転ゼントスルニツキ意見ヲ聞クトイフノガ目的デ話ガ長クナリ十一時マデカ、ル。（後略）

二月二十六日 木 半晴 午後曇リ小雨（前略）小野（善太郎）氏来訪、後由木（康）ヲ訪フ。

二月二十七日 金 曇 四年生話ヲ質問書ヲ出シ、一年二年モ集會ナドヲシテクダラヌ質問書ヲ呈出ス。夜（H・F・）ウヅウォース氏宅ニ集リテ相談アリ。（補）四年生

ノ質問ハ午後學院ニ集合ヲナシテ相談、他ハ其後ニ出デタルナリ。一年生集会ノ席ヘモ一寸覗イテ見タリ。

二月二十八日 土 雨、シニアデー、講堂ニ会合アリテ往ク。琵琶歌アリ、菓子ト鮎ト貰ウテ帰ル、(中略) 三時ヨリ、〈関西學院〉教会ノ役員会アリテ往ク。(後略)

二月二十九日 日 曇 小野〈善太郎〉氏説教、後洗礼式アリ、平木〈寅松〉生受洗者ノ一人ナリ、長尾〈武夫〉生モ今日入会ス。<sup>15</sup>夜松本〈益吉〉氏宅ニテ組会アリ、(後略)

三月一日 月 晴 一年生ニ先日來ノ挙動ニ対シ訓戒ヲ与フ(後略)

三月二日―十一日(火―日―木) 不定、感冒ニカ、リ此間寝コム、金曜日ニ少シ快方ニ見エタルヲ以テ登校シ、文科二年ノ莊子ヲ講ジテ歸リタルガ、其ガ為ニヤ復ビ発熱、熱トイウテハ八度ヲ越ザリシモ、ソレガ毎日午後二ナルト、規則正シク昇ツテ來ルノデ、甚ダ疑ハシク、又腦ヲ侵シテ居ルノデ頭痛シ、或ハ眩暈<sup>(めまい)</sup>シテ起ツコト六ケ數ク、少ク物ヲ読ミ、或ハ考ヘテモ、直ニ熱出デ、殊ニ右手棒ノ如クナリテ、文字書カレズ、辛抱シテ寝テ居ル。―屆神学部ヘハ三日(水)、文科ヘハ四日(木)ニ出ス。

二日(火) 横川四十八氏來訪、其後大島(隣三)生モ、六日野々村(戒三)氏暇乞ニ見ユ、(同夫人ハ五日ニ)、夜

〈村上〉謙介・楨三三宮ヘ送りニ往ク、(中略) 大島(隣三)生八日ニ暇乞ニ來ル。九日文科ノ送別会アリシガ往カズ(カ)フェー、ブラジル(後略)

三月十二日 金 晴 床ヲ離ル、午後体温例ノ如ク昇リカケシガ、昨日マデ種々ト試験シ、肺等ニアザルコトヲ確メタルヲ以テ、大ニ氣ヲ起シテ薪割ヲヤル。ソレニテ汗出デ熱下ル。(中略) 夕刻小野〈善太郎〉氏來訪、礼拝主事堀〈峰橘〉氏ニ代リタリト聞ク。<sup>16</sup>

三月十三日 土 晴 試験問題ヲ教務ヘ渡ス。久シ振ニ外出シテ見ル。所々様子違ヒタリ。院ノ南口カラハミル館ノ辺マデ鉄條網ヲ張り、表門ニ番人ヲツケテ人留メシタレドモ、赤犬ノヤウナ奴等ハ隙サヘアレバ紛レ込シテ通ル(後略)

三月十四日 日 曇 (前略) 礼拝吉崎(彦一)氏途中ヨリ聞ク。伝道者ノ起ランコトヲ勸ムルモノナリ。(後略)

三月十五日 月 曇後雨 東ノ風強シ 今日ヨリ試験始リテ出校ス。体ノ工合甚ダ悪シ。(中略) 夜南京町ニテ二円出シ、外岡(松五郎)氏送別会アリタルガ、往カズ。(後略)

三月二十日 土 晴 試験今日済ム。(村上)楨三モ。(中略) 午後採点ヲ終ル。(後略)

三月二十一日 日 晴 朝ノ礼拝ナシ。午後二時半ヨリ

卒業説教、講師釘宮〈辰生〉<sup>(159)</sup>例ノ早口ニテヨク聞取レズ、中学部卒業生十二人、高等部六人、神学部二人ノミ出席。コンナコトハ先ヅ始メテ。(後略)

三月二十二日 月 雨 卒業式、聖書ヲ読ム(書一〇一<sup>(160)</sup>、〈T・H・ヘーデン新約、大岩〈元三郎〉氏祈祷、吉岡〈美国〉勅語、〈J・C・C・〉ニュートン院長トシテ最後ノ訓示ナリトテ、長タラシキ英語ヲ読ム。永井柳太郎氏講演<sup>(161)</sup>ハ、維新後ノ二十年ヲ理想主義時代トイヒ、日清戦争以後ヲ現実主義時代トイヒ、今ヤ興ラントスルヲ、新理想主義時代トイヒ、維新時代ノ武士ハ、全国皆兵ガ我国ニ必要ナリト見ルヤ、自己ノ特權ヲ捨テ、四民平等ニシタトカ、物質ヤ領土ガ増加シテモ饑餓ニ苦ムモノガアレバ其等ハ無用ノ裝飾ジャトカ、普選ノプロバガンダト見テヨイガ、大ニ青年ノ氣ヲ鼓舞スルモノガアツタ。教師室デ悪口云フテ居タ教師ハ功ヲ嫉ムモノトイウテヨイ。彼等ハ平素貧弱ナ話ノ外ハ聞カセテ居ラヌデハナイカ。其後デ試験委員ノクダラス相談会ガアツタ。(後略)

三月二十六日 金 晴 (前略、註 博輔臥床ノ頃ヨリ、家内互ニ病氣、殊ニ女兒春枝最モ重態ナリ) 午前採点表ノコトニテ、一寸学校ヘ往ク。(後略)

三月二十七日 土 晴 午前学院ヲ訪フ。採点表済ム、

(中略) 其後奥田〈勲〉氏ヲ訪ヒ、堀〈峰橋〉氏ヲ訪フ。

三月二十八日 日 晴 (前略) 午後奥田〈勲〉氏ヲ訪ヒ家ノコトヲ話ス。夜石本〈廣二村井〈種一〉來訪、(後略)

三月二十九日 月 雨 午前九時ヨリ教師会議アリテ往ク。昼飯ニ冷クナツタ親子ドンブリトおかめ蕎麦ヲヨバレテ、夕刻マデカ、ル。(後略)

三月三十日 火 雨 成績ヲ尋ネニ来ルモノ種々アリ。昼頃堀〈峰橋〉氏ヨリ家ヲ貸サレルトイフ手紙来リシ故ニ奥田〈勲〉ニ知ラセニ往キ一緒ニ堀〈峰橋〉氏方ヘ来ル途中、森ノ此方ニテ足ヲクデキ横ニ榮<sup>(162)</sup>ヘル。夜小野〈善太郎〉氏送別、堀〈峰橋〉氏歓迎兼帶ニテ学生会館ニ在リ、予〈村上博輔〉送別ノ詞ヲノベ、松本〈益吉〉氏歓迎ノ詞ヲノブ。菊池〈七郎〉氏司会、吉崎〈彦一〉氏聖書、真鍋〈由郎〉氏祈祷(後略)

三月三十一日 水 雨 成績発表、落伍者ノボツク訪ネ来ルニヨワラサル。(後略)

# 【注】

(1) 当時の関西学院高等学部文科長・中学部長野々村戒三については、「村上博輔日記抄」八 注(152)を参照のこと(『関西学院史紀要』第十五号、二〇〇九年、

一一〇頁)。

- (2) 光村とは、『関西学院高等学部学生会員名簿(大正八年七月)』に名がある、光村和之(商科第二学年)のことか、光村利雄(文科二年級社会学科)のことかどうかは不明である。

- (3) 池田多助については、「村上博輔日記抄」八 注(107)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十五号、一〇五頁)。

- (4) 中学部入学試験は、「四月五日午前八時ヨリ施行ス、試験課目ハ読方、綴方、算術」「午後身体検査」とある(『私立関西学院中学部規則要覧(一九一九・一九二〇)』)。

- (5) 堀とは、学院史編纂室蔵「履歷書(一九二八年一〇月附)に、「四月バルモア主事就任」とある堀峰橋のことであろう。堀峰橋については、「村上博輔日記抄」四 注(21)を参照のこと(『関西学院史紀要』第十号、二〇〇四年、一三八頁)。

- (6) 高等学部入学試験は、「志願者総数四百五十七名、外に中学部より無試験入学者十五名」とある(『関西学院同窓会報』第二号、一九一九年八月、四頁)。

- (7) 竹ちゃんとは、池田多助の子どもであろうと思われるが、不明である。

- (8) 関西学院高等学部長(第二代) R・C・アームストロングについては、「村上博輔日記抄」六 注(109)を

参照のこと(『関西学院史紀要』第十三号、二〇〇七年、一四九頁)。

- (9) 教師会議で、商科及び文科入学者の決定に就いて採用人員(入学試験合格者)を約二百名とする議事記録がある(学院史編纂室蔵「高等学部教授会記録」第八二回職員会議、四月九日)。

- (10) 小沢渡については、「村上博輔日記抄」九 注(122)を参照のこと(『関西学院史紀要』第十六号、二〇一〇年、一六六頁)。

- (11) 「入学試験合格者氏名発表。商科二百十二名 文科四十五名」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、四頁)。

- (12) 中学部田中とは、「開校四十年記念 関西学院史(一九二九年)附録「旧教職員表」中学部欄に、「教諭 地歴 大正八年四月就職 大正一二年三月退職」(二九頁)とある田中清太と考えられる。

- (13) 関西学院高等学部商科長代理西山広栄については、「村上博輔日記抄」九 注(109)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六四頁)。

- (14) 額川については、不明である。

- (15) 上田熊次郎は、高等学部商科第一学年生である(学院史編纂室蔵「大正八年度商科成績表(第一学年)」綴)。

- (16) 生徒の河上とは、前掲書『関西学院高等学部学生会会

員名簿（大正八年七月）の文科一年欄に名がある河上忠夫のことかどうかは不明である。

- (17) 関西学院礼拝主事小野善太郎については、「村上博輔日記抄」七 注(8)を参照のこと（『関西学院史紀要』第十四号、二〇〇八年、二二五頁）。

- (18) 菊池七郎については、「村上博輔日記抄」九 注(19)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六五頁）。

- (19) 大岩元三郎については、「村上博輔日記抄」九 注(60)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一五八頁）。

- (20) 長谷川とは、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」中学部欄に、「教諭 地理 大正九年四月就職 大正十年九月退職」（二九頁）とある長谷川峰吉のことであろう。

- (21) J・C・C・ニュートン院長については、「村上博輔日記抄」六 注(86)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一三七頁）。また、ニュートンの前年（一九一八年一〇月）の帰任については、「村上博輔日記抄」九 注(162)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七〇頁）。

- (22) 教師会議で、商科二年生の学力査定再考の件についての動議があったことの記録がある（前掲「高等学部教

授会記録」第八三回職員会議、四月一八日）。

- (23) ナタナエルはイエスの弟子のひとり。ナザレはイエスの育った地。ナタナエルが「ナザレから何か良いものがでるだろうか」（ヨハネによる福音書第一章四六節）と言った話である。

- (24) 湯浅時太郎については、「村上博輔日記抄」五 注(147)を参照のこと（『関西学院史紀要』第十二号、二〇〇六年、二五六頁）。

- (25) 前掲「大正八年度商科成績表（第四学年）」綴に、清水正敏の名があるが、清水が中学部生の清水であるなら、不明である。

- (26) 西条とは、ランバス記念伝道女学校の西条寛雄であろう（『日本メソヂスト教会第十二回西部年会記録（大正八年）』「西部年会任命表」三六頁）。ランバス記念伝道女学校については、「村上博輔日記抄」四 注(6)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十号、一三六頁）。又、原真和「関西学院にとつての聖和史①四人の創立者」（『学院史編纂室便り』No.32、二〇一〇年）を参照のこと。

- (27) 岡島政尾については、「村上博輔日記抄」六 注(164)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一四八頁）。

- (28) 延長線とは、「大正八年四月十五日市電熊内延長線開通」

〔神戸市史〕第二輯、一九三七年、「年表」一八頁）とある、熊内延長線（熊内一丁目～上筒井間）（『神戸市電物語』年表欄、神戸新聞総合出版センター、二〇〇九年）のことであろう。

- (29) 畑歛三については、「村上博輔日記抄」九 注(23)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一五五頁）。また、本号「関西学院の人びと 畑歛三」も参照のこと。

- (30) 牛董とは、J・C・C・ニュートン院長のことであろう。なお、「村上博輔日記抄」六 注(132)に於いては、牛董を不明とした（前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一四四頁）。

- (31) 吉岡美国の近況について、前掲書『関西学院同窓会報』第二号（五頁）に、「名誉院長なる吉岡先生新任教師来任まで英語御教授下さる」とあり、学院史編纂室蔵「大正八年度受持学科配当表（高等学部）」に、商科「和英、英和」、文科「和英」担当の記載がある。

- (32) 一九一九年度における大学昇格運動について、四月二三日 高等部学生大学昇格実行委員一同は、学院理事に対し「嘆願書」（学院史編纂室蔵）を提出、五月二日 ニュートン院長が、全高等学部生に対し、理事会が大学令による大学に昇格させる決議をしたことを発表、等の動きがあった（『関西学院百年史 通史編Ⅰ』

一九九七年、四三二～四三三頁）。大学昇格運動に関しては、「村上博輔日記抄」九 注(181)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七三頁）。また、商科生六〇〇名は、日本人理事・日本人高等学部長を、との理事会への「建議書」（一九一九年一月二〇日附、学院史編纂室蔵）も提出している。

- (33) 関西学院神学部長T・H・ヘーデンについては、「村上博輔日記抄」五 注(8)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十二号、一三八頁）。

- (34) 外岡とは、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」高等商業学部欄に、「教授 商業学 大正六年九月就職 大正九年三月退職」（二四頁）とある外岡松五郎のことであろう。

- (35) 時実佐平については、「村上博輔日記抄」九 注(200)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七五頁）。

- (36) 佐藤清については、「村上博輔日記抄」七 注(27)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十四号、一二六～一二七頁）。

- (37) 司馬温公は、司馬光（一〇一九～一〇八六）の尊称で、北宋の政治家・学者（『広辞苑』第五版、一九九八年、一二一〇頁）。

- (38) D・ノルマンについては、「村上博輔日記抄」九 注

(88) を参照のこと(前掲書『関西学史紀要』第十六号、一六二頁)。

(39) 山本とは、前掲書『関西学院同窓会報』第二号(三頁)に、「御家庭の御都合にて山形市立商業学校へ転移」とある、山本清右衛門であろう。また、山本清右衛門は、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」中、学部欄に、「大正八年三月退職」(二七頁)とある。また、この山本については、「村上博輔日記抄」六注(64)・(69)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一三四頁)。なお、この山本の辞職願(一九一九年四月二五日附)は保存されている(学院史編纂室蔵「辞職願綴 一九一七—一九」)。

(40) 米田満『関西学院スポーツ史話—神戸原田の森篇—』(関西学院大学体育会、二〇〇三年、二五七頁)を参照のこと。以下、本日記抄に記載されている剣道部関連記事についても、同書(以下の注に於いては、「関西学院スポーツ史話」と略す)および『関西学院大学剣道部七十五年誌』(関西学院大学剣道部雄華会、一九八六年)を参照のこと。

(41) 「宗教部は五月上旬新入学生諸君歓迎の意を兼ね、賀川豊彦の宗教講演会を学生会館に開きたり」(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、五頁)とあり、賀川と関西学院とのつながりについて、「大正六年五月啓明寮招待

爾後、賀川は屢々学院を訪れ学生に多大の感激を与へ信仰の心を強めしむる所があった」(『関西学院高等商業学部二十年史』一九三二年、八〇頁)と記載されている。賀川豊彦(一八八八—一九六〇)は社会事業家。伝道者。明治学院神学部予科に入学、神戸神学校に転じて同校を一九一一年卒業。〇九年以降神戸新川のスラム街に居住し、伝道と隣保事業に従事、一四年米国に留学、一七年帰国して新川に戻り、労働組合運動に参加し友愛会に加盟。神戸の川崎・三菱造船所の争議(二一年)を指導、労働者の人間解放を強調する立場を堅持した(『日本キリスト教歴史大事典』教文館、一九八八年、二八四—二八五頁)。

(42) 三戸吉太郎については、「村上博輔日記抄」五注(134)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十二号、二五四頁)。

(43) この年、村上楨三は関西学院中学部第三年級。本日記抄に名の出でくる博輔の家族(八重、謙介、楨三、春枝)については、「村上博輔日記抄」八注(34)、九注(4)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十五号、九八頁。第十六号、一五三頁)。

(44) 文学会について、「文科会は五月歓迎文学会を開き、志賀勝君の『ボー』の作品に現れたる死』及び佐藤教授の『滯英雑感』と題する講演あり」とある(前掲書『関西学



院同窓会報』第二号、五頁）。

- (45) 大崎とは、文科第二学年生大崎治郎のことであろう

（前掲書『関西学院高等部学生会員名簿（大正八年七月）』。大崎治郎については、「村上博輔日記抄」

九注（145）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六九頁）。大崎治郎は、『会員名簿

二〇〇三』（関西学院同窓会、二〇〇三年、四五頁）「大

正九年」欄に名があるが、『文学部回顧』（関西学院文学部文学会、一九三二年、二六頁）に、中途で退学（一九二一年一〇月退学）の記載がある。

- (46) 田中とは、田中義弘のことであろう。田中義弘につい

ては、「シリーズ 関西学院の人びと 一八 田中義弘」

（前掲書『関西学院史紀要』第十六号）を参照のこと。

- (47) 前掲書『関西学院スポーツ史話』（二〇三頁）を参照の

こと。以下、本日記抄に記載されている野球部の試合についても、同書および『関西学院野球部百年史』（関西学院硬式野球部OB会、一九九九年）を参照のこと。

- (48) 由木とは、文科第四学年で、大正八年度高等学部学生会

会宗教部長であった由木康のことである（学院史編纂室蔵「大正八―昭和三年卒業生 学籍」（関西学院文学部英文学科）。『関西学院学生会抄史』学生会組織年表、

関西学院学生会、一九三七年）。

- (49) 河上丈太郎については、「村上博輔日記抄」九注

（226）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七八頁）。

- (50) 小野の渡米について、「学院礼拝主事小野善太郎氏は日

本の教徒を代表する一人に選定されて北米合衆国オハイオ州コロムバス市に開催するメソヂスト宣教百年記念会に派遣された」（前掲書『関西学院同窓会報』第二号、

三頁）とあり、「宗教々育視察ノ為北米合衆国及英領加奈陀へ本月ヨリ向フ六ヶ月間派遣」〔旅費、滞在中一切

ノ費用ハ本学院負担〕（学院史編纂室蔵の兵庫県知事宛証明書、一九一九年五月三日附）とある。また、『護教』

第一四六五号（一九一九（大正八）年九月一九日）、『教界時報』第一四八〇号（一九二〇（大正九）年一月八日）

に、渡米関連記事がある。

- (51) 歌の夕は、午後七時半から高等学部講堂での、グリー

クラブ開催の「第三回歌の夕」のことである（学院史編纂室蔵「第三回歌の夕」プログラム）。

- (52) 青年会主事高谷とは、『神戸とYMCA百年』（神戸キ

リスト教青年会、一九八七年、一七〇頁）に、宗教部主事とある高谷道男であろう。

- (53) 鈴木とは、小使の鈴木利正であろうか。鈴木利正につ

いて、「鈴木小使は相変らずやかましく世話を焼いて居りますが此頃は受附専務となりました」とある（前掲書『関西学院同窓会報』第二号、三頁）。鈴木利正につ



いては、「村上博輔日記抄」五 注(15)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十二号、二三九頁)。

- (54) 『関西学院庭球部七十年史』(関西学院庭球部七〇年史編集委員会、一九八四年、四五頁)に、同志社対高等部庭球試合の戦績表が掲載されている。

- (55) 米国大使モリス (Morris Roland Steier 一八七四～一九四五) は、日本駐在特命全權大使として来日し(一九一七～二〇)、日米のシベリア出兵に関する交渉に従事した(『岩波西洋人名辞典』一九八一年、一五四六頁)。モリスの来学について、「数日間神戸に滞在中の米国大使モリス氏は特に学院の乞を容れて午後三時来院生徒一同の為に演説」「モリス氏は世界の大勢と国際関係を説明して改造さるべき新世界の住民に社会奉仕の念の重要な事を論じられた」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、三頁)。なお、モリス大使は、原田の森で天幕演説を為し、「高等学部の一モットー Mastery for Service を賞賛され将来の世界は奉仕を離れては決して立ち行かぬと力説された」とある(前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』七三頁)。
- (56) 鈴木金子とは、金子直吉のことであろう。金子直吉(一八六六～一九四四)は、明治・大正・昭和の実業家。神戸の鈴木商店店員となり、同商店の発展の基礎を築き、大正期には日本製粉・山陽電鉄など多数

の会社の設立にも関係した(『コンサイス人名辞典 日本編』三省堂、一九八九年、三二四頁)。鈴木商店については、「村上博輔日記抄」九 注(155)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七〇頁)。

- (57) 前掲書『関西学院スポーツ史話』(二七三～七四頁)および『関西学院大学柔道部八十年史』(関西学院大学柔道部OB会、一九八九年、二三頁)を参照のこと。なお、部員名について本日記抄では、吉原、木原と書かれているが、前掲書『関西学院スポーツ史話』などでは、吉宗、木曾と訂正されている。

- (58) 同志社大学剣道部戦における審判の不都合を、前掲書『関西学院スポーツ史話』(二五七～五八頁)は、「村上博輔日記」を引用して紹介。本日記抄に記載されている関西学院の部員は、中尾徳一(商科第三学年)、村井種一(商科第二学年)、坪田寿男(商科第一学年)、石本廣一(商科第二学年)である。

- (59) 日野原とは、当時、神戸中央教会(現・神戸栄光教会)牧師であった日野原善輔のことであろう。日野原善輔については、「関西学院の人びと 一四 日野原善輔」を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十四号、一五七～七五頁)。

- (60) 関西専門学校野球大会の大阪歯科医専(現・大阪歯科大学)との試合(前掲書『関西学院野球部百年史』

四一頁を参照のこと)。坪川は、商科第一学年の坪川宣一であろう。柳田は、主将で第四学年の柳田周蔵である。柳田周蔵については、「村上博輔日記抄」九注(72)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六〇頁)。

- (61) 神崎驥<sup>きいち</sup>一について、「久しく米国に在って種々の方面に活動せられた同君は、在米日本人会書記長として(略)内外人の間に厚い信用を得て居られるが、此度日本人会の要務を帯びて外務省其他と打合せすべく帰朝された。中学部校舍落成式に於ける講演者として学院の招に応じ来院せられ三回程日米関係関西学院の使命等について講演された」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、七七八頁)。神崎驥一は、一九〇一年三月関西学院普通学部卒業、一九〇一年四月から〇三年三月まで同高等部在学。同年に渡米し、カリフォルニア大学に留学、大学院に進学。吉岡美国第二代院長の女婿となり、一九二一年、関西学院高等商業学部長就任のために帰国した。その後、第五代院長(一九四〇―一九五〇年)、第二代学長(一九四〇―一九四六年)となる(『関西学院事典』二〇〇一年、五八頁、『関西学院百年史 通史編Ⅱ』一九九八年、歴代役職者一覧および神崎驥一「履歴書」一九三四年三月二九日附)。

- (62) 前掲書『関西学院同窓会報』第二号(六頁)に、庭球

部の当日の神戸高商戦進行記事がある。本日記抄に出てくる部員名は次の通りである。木村亮次郎(商科第三学年)、波江野英一郎(商科第三学年)、小野忠雄(商科第二学年)、瀬尾一美(商科第三学年)、藤田守(商科第一学年)、福谷了(商科第三学年)(前掲書『関西学院庭球部七十年史』四六・五二頁、および前掲「大正八年度商科成績表」綴)。なお、神戸高商の小柳については、前掲書『関西学院同窓会報』第二号では、小柳となつてゐる。また、この日の試合の様子などについて、米田満「関西学院体育スポーツ抄史2―村上博輔日記抄を読む―」(『関西学院史紀要』第五号、一九九六年)に詳しく紹介されている。

- (63) 柴田とは、商科第四学年の柴田克己であろう。柴田克己については、「村上博輔日記抄」九注(203)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七五頁)。なお、前掲書『会員名簿 二〇〇三「大正九年」欄(六〇頁)には、柴田克己とある。

- (64) 『大隈伯社会観』(大隈重信著、文成社、一九一〇年)などを編した立石駒吉であろう。

- (65) 教師会議で、「ニュートン」院長ヨリ、此度アームストロング氏休養ノ為一ヶ年帰国サルルニツキ、野々村戒三氏ヲ高等学部長代理ニ依頼スル由報告アリ」と記録がある(前掲「高等学部教授会記録」(第八回職員会議、

六月二一日)。

- (66) 「音楽部は宗教部と共に六月下旬青年会館に於て大音楽会を催し、入場謝絶の盛況を呈したり」(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、五頁)とあり、神戸キリスト教青年会主催の関西学院慈善音楽会であった(『関西学院グリークラブ八十年史』一九八一年、四七頁)。同「CHARITY CONCERT」プログラムを学院史編纂室は所蔵。

- (67) 吉崎彦一については、「村上博輔日記抄」五注(55)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十二号、二四四頁)。

- (68) 寿岳とは、一九一九年高等学部英文科入学、一九二三年三月英文科卒業の寿岳文章のことである(前掲「大正八―昭和三年卒業者 学籍」。寿岳は、その後、関西学院専門部文学部講師(一九三二年就任)、法文学部講師(一九三四年就任)、文学部英文学科教授(一九四八年就任)を歴任し、一九五二年に同文学部を辞任、甲南大学へ移った。また、和紙の研究を通して民芸運動に貢献(前掲書『関西学院事典』一五一頁)。

- (69) 鈴木某については、不明であるが、大阪南坊住職について、大阪日本橋南坊の住職吉田、との記事がある(前掲書『文学部回顧』三五頁)。

- (70) R・C・アームストロング送別会当日についての記事に、

「アームストロング部長一ヶ年休養の為帰国せられ野々村戒三氏其後任となる由ニウトン院長から発表され旧部長から新部長へ鍵及印章譲渡の式を行った」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、四頁)。

- (71) 伝道百年祝賀会について、「メソヂスト外国伝道開始第百年記念日といふので、学院内に色々催しがありました」(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、三頁)とあり、第一部祝賀礼拝、第二部代表者歓迎会、第三部園遊会、第四部記念懇話会、第五部音楽礼拝のプログラムであった(学院史編纂室蔵「百年記念大成運動祝賀会執行順序」。なお、『護教』第一四五二号(一九一九(大正八)年六月二〇日)、第一四五五号(一九一九(大正八)年七月二一日)に伝道百年記念の光景報告がある。

- (72) R・C・アームストロングの帰国について、「アームストロング氏は一年間の休暇を得て六月三十日午後六時半三の宮駅出発帰郷の途に」「故国カナダへ家族同伴帰郷する」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、一・五頁)。

- (73) 講和成立とは、六月二八日のベルサイユ講和条約調印のことであろう。前掲書『関西学院同窓会報』第二号に「平和克復祝賀の日で学院各部聯合で露天の祝賀式」「吉岡名誉院長、松本教授及大岩教授の演説」「中学部校庭に於て平和克復祝賀式を挙行」(二・四頁)とある。

(74) 関西学院中学部教頭真鍋由郎については、「村上博輔日記抄」九注(157)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七〇頁)。

(75) 岸波常蔵については、「村上博輔日記抄」八注(13)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十五号、九五頁)。

(76) 関西学院長代理松本益吉については、「村上博輔日記抄」九注(30)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一五五頁)。

(77) W・A・デビスについては、「村上博輔日記抄」六注(216)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一五五頁)。

(78) 文学会について、「七月に入りて第一回の文学会を池田教授の宅に催し、由木康君の『ブラウニングの恋愛詩』及び河上教授の『ダンテの政治思想に就て』の二講演あり」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、五頁)。

(79) 永井柳太郎の講演について、「永井柳太郎君 一ヶ年程米国から欧州方面視察に赴かれた同君は此程帰朝され七月三日には高等学部にて同四日には中学部に於て講演を試みられた講和会議を目撃せられた同君の談話は頗る興味深いものであった」とある(前掲書『関西学院同窓会報』第二号、八頁)。また、前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』附録「商学会講演・出版・

役員年表」欄に、「七・三 世界平和に対する所感 永井柳太郎氏」(二二頁)とあり、『商光』第六号(関西学院高等部商科会、一九一九年十二月)講演欄に、同講演記録の掲載がある(六一―一四頁)。

(80) オゾリンとは、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」宣教師並二雇外人教師欄に、「文・商 講師 英文学 大正七年九月就職 大正一〇年七月退職」(二二頁)とあるヤン・アー・オゾリン高等学部講師のことで、アメリカで烟草三と知り合つて学院に來たことや語学大会に功があったことが紹介されている(前掲書『文学部回顧』二五頁)。なお、オゾリンに関しては、池田裕子「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンをめぐって」(『学院史編纂室便り』No. 26、関西学院学院史編纂室、二〇〇七年)、「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンをめぐって」(『学院史編纂室便り』No. 27、二〇〇八年)に詳しく書かれている。また、本号のシルヴィヤ・クリジエヴィツァ著、田中研治訳「ヤーニス・オアゾアリンシユー日本(神戸、一九二〇―二二年)でラトヴィアの外交官と領事を務めた人物」および池田裕子「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンとその教え子―曾根保と由木康」を参照のこと。

(81) ベルサイユ講和条約調印(六月二八日)の祝賀で、花

や電灯などで飾った花電車もでたのであろうか。なお、「神戸市講和祝賀会は五日（略）雨を冒して東遊園地に於て行はれたり」（『大阪朝日新聞』一九一九年七月六日）と記事にある。

- (82) 重田は、中学部教諭重田富吾、石井は、中学部教諭石井謙亮のことであろう（前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「現教職員」欄、三三六頁）。学院史編纂室蔵「中学部職員原簿」綴に、「石井謙亮 大正八年四月一日任用」とある。加藤は、同書「旧教職員表」に、「中嘱託 国漢 大正七年四月就職 大正九年三月退職」（二九頁）とある加藤美江であろう。

- (83) 上井とは、上井義雄のことであろう。上井義雄については、「村上博輔日記抄」九注(212)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七六頁）。黒石とは、商科生第四学年黒石正雄のことであろう。黒石正雄については、「村上博輔日記抄」九注(193)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七四頁）。

- (84) 長谷とは、前掲書『開校四十年記念 関西学院年史』附録「旧教職員表」中学部欄に、「幹事 化学 明治二五年就職 大正七年三月退職」（二五頁）とある長谷基一であろう。長谷基一については、「村上博輔日記抄」五注(123)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十二号、二五三頁）。

- (85) 神学生一安とは、学院史編纂室蔵「大正八年度入学願書（神学部）」綴に名のある本科生の一安説であろう。

- (86) 関西学院元中学部教諭の米沢高工阿部正治郎については、「村上博輔日記抄」五注(93)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十二号、二四九頁）。

- (87) 内藤とは、前掲書『関西学院高等学部学生会会員名簿（大正八年七月）』に名がある内藤春生（商科第一学年）のことかは不明である。

- (88) 御影教会牧師村田藤一については、「村上博輔日記抄」九注(154)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六九～七〇頁）。

- (89) 使丁の佐藤とは、前掲注(53)の鈴木の他に、「給事が二名となりまして一名は理化博物など準備の手つだひを主としてやって居ます」（前掲書『関西学院同窓会報』第二号、三頁）とある、一名であろう。

- (90) 神学生の林については、不明である。

- (91) W・R・ランバス南メソヂスト教会監督一行の歓迎会について、「八月下旬軽井沢に於て開催の宣教師年會を司裁する為に來日されたランバス監督一行を迎えて、同月三十日夕我が教会が中心となり市内のメソヂスト五教会が連合で、パルモア学院に於て歓迎会が催され百二十五名が出席した」（『神戸栄光教会七十年史』一九五八年、九七頁）とあり、歓迎会は出席百二十名

で、一行者に米国南メソヂスト教会外国伝道局長E・H・ローリングス博士及同教会婦人外国伝道局長メーベル・ケー・ハウエル女史の名がある（『日本メソヂスト神戸中央教会週報』一九一九年八月三十一日、九月七日）。W・R・ランバス、E・H・ローリングスの来朝について、『護教』第一四六〇号（一九一九（大正八）年八月一五日、一一頁）、第一四六三三号（一九一九（大正八）年九月五日、一〇頁）に記事がある。パルモア学院の前身がパルモア英学院（一八八六年設立）である（前掲書『関西学院百年史 通史編I』二二八頁）。なお、『日本メソヂスト教会第十三回西部年会記録（大正九年）』の広告欄に、「パルモア英学院」（神戸市北長狭通四丁目二十三番）の沿革・目的が掲載されている。

(92) 前掲書『関西学院スポーツ史話』に、「九月四日、神戸二中に九一で勝ち」（二二八頁）とある。武陽は、神戸第二中学の校友会名である。

(93) 山崎とは、前掲「大正八年度商科成績表（第一学年）」綴および前掲書『関西学院スポーツ史話』（二〇四頁）に名のある山崎数信であろう。

(94) 教師会議の報告に、「兼テ風聞ノアリシ学院創立三十年記念式ハ延期ニ決セリ、特別手当増加請願ニ関シ其経過報告アリタリ」とある（前掲「高等学部教授会記録」第八六回、九月一一日）。

(95) 「当時神戸に滞在中のチェック、スロバキア軍楽隊を招待して学院チャペルに於て演奏会を開いた。オーケストラ十四、コーラス十二名の一隊であった」とある（前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』八一〜八二頁）。なお、チェコ軍を招いての音楽会をきっかけとしたグリークラブとの交流については、前掲書『関西学院グリークラブ八十年史』および軽部潤「名曲『C. Bon』のルーツと関西学院グリークラブ」（前掲書『関西学院史紀要』第十六号および本号の「訂正について」）を参照のこと。

(96) 大阪毎日主催の第一回全国専門学校関西野球大会（於豊中グラウンド）の大阪薬専との試合は降雨のためコールドゲーム（17対0）となった（前掲書『関西学院スポーツ史話』二〇四頁、前掲書『関西学院野球部百年史』四一頁）。大阪薬学専門学校の後身は大阪大学である。

(97) 前掲書『関西学院スポーツ史話』（二三八頁）に、チェコスロバキアの軍隊チームとの対戦試合（於 関西学院グラウンド）に至る経緯、神戸の町で行われたア式国際試合の最初であることが記載されている。また、『関西学院大学サッカー部七十年史』（関西学院大学サッカー部OB会、一九八九年、一一頁）に、チェコ軍隊チームと関学チームの写真が掲載されている。

(98) 平松とは、高等学部学生会芸部部長平松金次（前掲書『関西学院同窓会報』第二号、五頁）とある文科第三学年平松金次であろう。また、学院史編纂室蔵『入・退学者名簿（大正六年四月以降） 高等学部』綴に、「退学文 三 平松金次 京大法学部入学 大正八年 九月二五日」とある。よって、退学の挨拶のための来訪であろうか。

(99) 曾木銀次郎については、「村上博輔日記抄」六 注(38)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一三〇頁）。

(100) 田中とは、田中義弘のことであろう。

(101) 『大正九年二月 私立学校関西学院高等学部文科商科要覧』には、「学年ヲ分チテ二期トシ四、五、六、七、九、十、ノ六個月ヲ前期トシ十一、十二、一、二、三ノ五個月ヲ後期トス」（二一頁）とあり、また、「本年度から一学年三学期を一学年二学期制に改めた。第一学期は四月より、九月末に至り第二学期は十月より翌年三月に至る従って試験は十月初旬と三月下旬となる」とある（前掲書『関西学院同窓会報』第二号、四頁）。この三学期制度が二学期制度に変更された理由は、一九一九年度からは、試験の回数を減らし授業日数を増やすためであった（前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』六八頁、『関西学院百年史 通史編Ⅰ』三五二頁）。

(102) 学院史編纂室蔵「教職員給与の臨時措置について」ファイルに、書簡「教師の給料についての要望書」（一九一九年六月二四日附、アームストロング高等学部長宛）、また、「財務委員会ガ九・十月両月二週リ教職員等ノ戦時手当ヲ五割増加シタルヲ承認ス」などと書かれた「決議」書簡（日付の記載はない）がある。

(103) 歓迎会における新任教員は、石井卓爾教授（九月就任）、馬淵得三郎教授（八月就任）であろう（前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』附録「現職員一覧表」一二頁、前掲「高等学部教授会記録」第八六回）。この年の四月就任者には、奥田勲、東晋太郎がいる。

(104) 学院運動会について、「学院創立三〇周年を祝い、またこの春の中学部新校舎の竣成をも記念した大運動会が中学部のグラウンドで挙行される」（前掲書『関西学院スポーツ史話』二二六頁）とある。

(105) 請願書とは、教職員給与の特別手当増加請願についてのものである。

(106) 加藤直士については、「村上博輔日記抄」六 注(138)を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一四五頁）。

(107) W・R・ランバスの関西学院についての談話、歓迎会の資料は見当たらないが、ランバス監督が、日本メソヂスト教会第四回総会（一九一九年一〇月二三日）



一月四日、於東京銀座教会）に來会し、一月二日に、説教を行った記事はある（『日本メソヂスト教会第四回総会議事録』五頁、『護教』第一四七〇号（一九一九（大正八）年一〇月三日）「監督告示」欄、一頁）。

- (108) 沖野岩三郎（一八七六—一九五六）は、牧師、評論家、作家。小学校教員を辞し、一九〇四年明治学院神学部に入學、日露戦争下に学友賀川豊彦と反戦行動をとる。一八年『大阪朝日新聞』の懸賞小説に入選した『宿命』は、大逆事件一断面を描いたもので大きな反響をよんだ（『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局、一九八六年、三一六頁、前掲書『日本キリスト教歴史大事典』二五一頁）。前掲書『文学部回顧』に、一九二〇年に沖野岩三郎が「日本社会主義文芸史」の話をしに來られ（二二頁）とある。

- (109) キッドとは、英国教会聖職で、教会史に関する研究業績のある教会史家の Kidd, Beresford James（一八六四—一九四八）（前掲書『キリスト教人名辞典』四一四頁）であろう。

- (110) 高等部野球部初の東都遠征での明治大そして早稲田大との対戦については、前掲書『関西学院スポーツ史話』（二〇四—〇五頁）を参照のこと。

- (111) 関西学院中学部教諭 W・A・デビスは、「一九二〇年に妻子の病氣のために本国に召還され、一九二四年

にカリフォルニア州の南メソヂスト東洋人宣教師の責任者となり、一九三八年の引退時まで務める」（『來日メソヂスト宣教師事典』一八七三—一九九三年）教文館、一九九六年、六四頁）とある。また、『護教』第一四七七号（一九一九（大正八）年二月一日、六頁）に、デビスの帰米記事がある。

- (112) クロスについては、不明である。

- (113) 学院史編纂室蔵「青海短歌会<sup>せいかい</sup> 詠草」（第一九回—三五回）、佐藤清編纂『青海歌集』（民文社出版、一九三二年）に、村上謙介作品の掲載がある。短歌会のこの日の記録は不明であるが、村上謙介は、おそらくこのグループの短歌会（一九一五年開始）に参加したのであろう。また、カフエ・ライオンは、『大正十三年用 京阪神職業別電話名簿』（時事通信社、一九二四年）「西洋料理業」欄（五五頁）に、「カフエーライオン 上筒井、四ノ五」と記載されている店であろう。

- (114) 前掲書『開校四十年記念 関西学院史』に、「十一月、播磨の野に於て、陸軍特別大演習行はれ、天皇陛下には、之が御統監のため兵庫県下に行幸あり、武庫離宮（神戸市須磨区の現・須磨離宮公園の地）を以て大本營に充てさせられ、連日軍務を親裁」（二二六頁）、続いて十二日の侍従の学院御差遣の記事もあり、学院史編纂室蔵「御使御差遣日程（十一月十二、十三日）」に、「御



差遣場所」として、「十二日湊川神社・生田神社・関西学院・広田神社等、十三日長田神社・神戸女学院等」の記載がある。また、学院の特質及び目的を記載した添書もある。

- (115) 上ノ山とは、甲山かふとやま（西宮市内）のことであろう。甲山はもともとの名が「神の山（カミノヤマ）」であった説がある（『摂津ぶらり旅』神戸新聞総合出版センター、二〇一〇年、一六一頁）。

- (116) 学院史編纂室蔵「第六回東西学生雄弁大会順序」（プログラム）に、「十一月十四日 関西学院高等学部弁論部主催」とある。

- (117) 増井光蔵については、「村上博輔日記抄」九 注（12）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一五三頁）。

- (118) 教師会議でのJ・C・C・ニュートン院長の報告に、「野々村氏辞任ニ付 自分ハ一時的ニDeanノ職ヲ係ラントス 文科ニ付テハ村上教授教務ニアツテ事実ニ於テ責任ヲ負フコトヲ希望ス。商科ニ付テハ変通ノ策ヲテ諸君ノ内ヨリ一名ヲ探出シテ一時的ニ科長ノ職ヲ見ルルヲ得ントス」とある（前掲「高等学部教授会記録」第八七回職員会議、一月二五日）。

- (119) 木村とは、木村禎橘のことである。木村禎橘の退職については、「村上博輔日記抄」九 注（123）を参照のこ

と（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六六頁）。

- (120) 神学生伊藤とは、伊藤與雄（学院史編纂室蔵「大正四年度入学願書（神学部）」綴、本科生）か、伊藤資生（「大正五年度入学願書（神学部）」綴、本科生）であろう。

- (121) 教師会議で、理事会に対し科長選挙権を職員に与うるべく学院憲法の修正を希望する決議をし、また、決議を理事会に説明する委員（佐藤、村上、池田）を選んだ記録がある（前掲「高等学部教授会記録」第八八回職員会議、二月六日）。

- (122) 久保田については、不明である。

- (123) 村上博輔が文科長となった時期は、「一九二〇・一一・一九二一・一二・二七 文科長代理」（前掲書『関西学院百年史 通史編Ⅱ』七一八頁）とある。

- (124) 新井とは、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」中学部欄に、「教諭 図画 大正七年五月就職 大正九年三月退職」（二九頁）とある新井謹也であろう。なお、市田写真館については、「村上博輔日記抄」八 注（169）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十五号、一一一～一二頁）。

- (125) 小沢庶務とは、前掲書『大正九年二月 私立学校関西学院高等学部文科商科要覧』教授欄とは別に、「事務長 小沢廣」（二三頁）とある小沢廣のことであろう。なお、学院史編纂室蔵「履歴書」には、「大正九年七月 関西

学院教員ニ就職ス、大正十年三月 関西学院高等商業学部事務長兼務ス」とある。また、「小沢先生は、大正の始め学院高等学部就任され、長い間庶務の主管もやっていたが、私たちは弓道師範としての姿が大きくクローズ・アップする」との記事がある（寿岳文章「歌おうブランデン作の校歌」『NEWS FROM OLD KWANSEI』第三〇号、一九六三年一〇月）。

- (126) 奥田とは、「教授 商業学 大正八年四月就任」とある奥田勲のことであろう（前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』附録「現職員一覧表」、一二頁）。

- (127) 上阪泰次については、「村上博輔日記抄」九 注（244）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七九頁）。

- (128) R・スミスについては、「村上博輔日記抄」七 注（183）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十四号、一四二頁）。

- (129) 三宅嘉策については、「村上博輔日記抄」九 注（95）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一六三頁）。

- (130) H・F・ウッズウォースについては、「村上博輔日記抄」七 注（115）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十四号、一三六頁）。

- (131) 筒井校とは、一九一九年に「筒井・真野の二夜学校を新設」

（前掲書『神戸市史』第二輯本編、九〇〇頁）とある市立の夜学校であろう。神戸市の諸学校の休校は、流行性感冒が流行っていたからであろう。

- (132) 米国南メソヂスト教会はその伝道局が創立されてより百年の記念の年を迎え、伝道開始百年記念の運動として「教会の霊的生命的発揚」と「財産聖別精神の振起」とを目的として掲げ、教会の躍進運動を起した。日本メソヂスト派も「百年記念大成前進運動」（要約して大成運動という）を起したのである（『関西学院教会八十年史』、関西学院教会、二〇〇〇年、三一頁）。

- (133) ハミル館を高等学部文科の仮校舎とする（前掲書『関西学院百年史 通史編Ⅱ』「年表」、六〇三頁）。

- (134) 再来日したC・J・L・ベーツについては、「村上博輔日記抄」九 注（174）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一七二頁）。

- (135) ドイツ兵送別音楽会の記事として、「由木康、等が組織したグリークラブの別働隊といった存在をオルフェオ・ソセティと云った」「ある時ドイツの捕虜が送還される時、カフェーオリエントで合唱してドイツ人を泣かしめたと云ふ話しさへ残っている（由木、村上談）」とある（『文学部創立回顧』関西学院文学部文学会、一九三四年、二二頁）。また、「この秋（大正八年）、ドイツの捕虜送還の際、カフェーオリエント」で慰問の音楽会を開き」

(前掲書『関西学院グリークラブ八十年史』五三頁)とあるが、いずれも音楽会開催日の記載はない。

(136) 日本メソヂスト教会第二代監督の平岩愼保については、

「村上博輔日記抄」六 注(53)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十三号、一三二―一三三頁)。

鎮西学院長であった鵜崎庚午郎は、一九一九年一月の日本メソヂスト教会総会に於いて第三代監督に選ばれた(前掲書『日本メソヂスト教会第四回総会議事録』三九頁、『神戸栄光教会七十年史』六四頁)。鵜崎庚午郎については、「村上博輔日記抄」四 注(53)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十号、一四四頁)。日本メソヂスト教会監督の交代について、前掲『護教』第一四七〇号「監督告辞」、第一四七二号(一九一九(大正八)年一月六日)「監督就任の挨拶(総会議場に於ける)」、第一四七五号(一九一九(大正八)年一月二七日)「社説 平岩前監督の労を謝し鵜崎新監督を迎ふ」などの記事があり、また、『教会時報』第一四八四号(一九二〇(大正九)年二月三日)「個人消息」欄(九頁)に、「鵜崎監督 四日夕神戸に向はれ、近畿九州地方巡廻の後、二月下旬帰京の筈」、第一四九二号(一九二〇(大正九)年四月二日)「個人消息」欄(八頁)に、「平岩氏 依然日本メソヂスト教会に教籍を置き、員外教師として自由伝道をなさる、こととなれりとぞ」とある。

る。

(137) 日本メソヂスト教会初代監督本多庸一については、「村上博輔日記抄」四 注(5)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十号、一三六頁)。

(138) 前掲書『関西学院スポーツ史話』(二三九―四〇頁)に、「ドイツ・オーストリア連合チームを迎え、二度目の国際試合を行う」とあり、その経緯と試合の模様(試合結果は六―一とある)が記載されている。また、前掲書『関西学院サッカー部七十年史』主要記録欄は、「ゲーム名 ドイツ軍艦チーム、スコア ドイツ六―一御影師範・関学連合軍」(四〇〇頁)とある。

(139) 教師会議でのJ・C・C・ニュートン院長よりの、①ニュートン氏は院長の職を辞する(ただし、公認院長のあるまでは其の職に就く ②理事会はアームストロング高等学部長の帰校する八月二日までウッズウォース氏を高等学部長代理に任命 ③理事会は今回高等学部商科長として招聘する在米の神崎氏が帰朝するまで(二月)、現商科長大岩氏が留任する ④理事会は池田氏を文科長に選ぶ ⑤理事会は中学部長野々村氏が二月一五日よりその職を辞せらる事を承認し、田中氏をその後任とする、等の報告及び学年末スケジュールの議事、等の記録がある(前掲「高等学部教授会記録」第八九回職員会議、二月九日)。

(140) 木村楨橘からの洋行(ロンドン) 見送りの通信記事  
(一九二〇年二月附)が、『商光』第七号「雑報 校外通信」  
欄(関西学院高等部商科会、一九二〇年四月、八九頁)  
に掲載されている。

(141) 入会とは、関西学院教会への入会のことであろうと思  
われるが、前掲書『関西学院教会80年史』「入会者原簿  
一覧表」には、「入会年月日 一九一八年二月二二日  
村上やよ・謙介・楨三・春枝、桑原園枝」とある(三三三  
～三四頁)。なお、楨三の受洗教会・司式者は神戸東部  
教会 J・C・C・ニュートンとある。

(142) 志賀勝(文科第三学年)については、「村上博輔日記抄」  
九注(144)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』  
第十六号、一六八～六九頁)。

(143) 桑原興について、前掲「入・退学者名簿(大正六年四  
月以降) 高等学部」綴に、「退学 文(科)二(年)  
桑原 興 死亡」(大正九年三月五日附)とある。

(144) 田中とは、『教界時報』第一四八八号(一九二〇(大正九  
年三月五日)「個人消息」欄に、「田中義弘 三週間前  
より軽症の肋骨炎を病み、昨今静養中」(八頁)とある  
田中義弘のことであろう。

(145) 学院史編纂室蔵の当日の神学部学生会主催「文芸会プ  
ログラム」に、英語暗誦、二部合唱、現代劇などの演  
目と出演者名が記載されている。また、『教界時報』第

一四九〇号(一九二〇(大正九)年三月一九日)「教  
報 神戸通信」欄(八頁)に、同文芸会が開催された  
ことの紹介記事がある。

(146) 神戸基督教青年会のスワン(G. D. Swan)は、一九一四  
年名誉主事着任、一五年総主事事務取扱に就任、二二  
年帰国とある(前掲書『神戸とYMCA百年』年表、  
一六四頁)。

(147) 沖憲一については、不明である。

(148) J・G・シムスについては、「村上博輔日記抄」八注  
(127)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十五号、  
一〇七頁)。

(149) 教師会議の議事に、文科第四学年の小田切(平和)の  
卒業試験受験資格の有無取扱いの件、大島(隣三・結  
城(由木康)の追試験及び卒業試験(二月二七日)取  
扱いの件、商科第四学年村田・守安・柳瀬・中村治三  
郎の落第取扱いの件が記録されている(前掲「高等学  
部教授会記録」第九一回職員会議、二月二五日)。

(150) 小田切平和については、「村上博輔日記抄」九注  
(165)を参照のこと(前掲書『関西学院史紀要』第十六号、  
一七一頁)。前掲「入・退学者名簿(大正六年四月以降)  
高等学部」綴に、大正九年四月二七日附退学の記載が  
ある。

(151) 前掲「大正八年度商科成績表(第四学年)」綴に、村田

成雄、守安貞雄、柳瀬貞、中村治三郎の名はある。なお、守安、柳瀬は、前掲書『開校四十年記念 関西学院年史』附録「卒業生名簿」大正十年高等商業学部卒業生欄（四四頁）に名がある。

- (152) 由木、大島とは、前掲注（149）に記載の由木康、大島隣三のことで、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「卒業生名簿」大正九年文学部（英文学科）卒業生欄（三九頁）に、二人の名がある。由木康「出会いから出会いへーある牧師の自画像」（教文館、一九七六年）に、「卒業間際の二人スト」の見出しで、同級生大島と二人してレポートを出さないストライキをし、卒業となった経緯が記されている（六二―六三頁）。由木康は、関西学院在学中に『聖書唱歌』一卷、『日曜学校唱歌集』全三巻を出版。卒業したその後、現・東中野教会牧師に招聘された。牧会活動のかたわら、英語讃美歌をはじめ古今の讃美歌を訳詞・編集した。昭和期の賛美歌界の第一人者である。また、パスカル研究者としても優れた業績を残している（前掲書『日本キリスト教歴史大事典』一四五三頁）。大島隣三の紹介記事は前掲書『文学部回顧』（二六―二七頁）にもある。大島隣三については、「村上博輔日記抄」九 注（61）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十六号、一五八頁）。
- (153) 矢田部については、不明である。

(154) 質問書については、不明である。

(155) この日、三名の受洗者名の記録がある。平木とは、関西学院中学部教諭平木寅松のことであり、入会の長尾とは、商科生長尾武夫のことである（前掲書『関西学院教会80年史』三三五頁）。平木寅松は、「中教諭 英語 大正八年三月就職 大正九年三月退職」（前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」二九頁）とあり、長尾武夫は、前掲「大正八年度商科成績表（第三学年）」綴に、その名がある。

(156) 横川四十八については、学院史編纂室蔵「支払調書（大正九・十年度）」（「税務署願届書類 一九一三―一九二〇年」綴）に、講師として名がある。

(157) 小野善太郎については、「大正九年三月退職」（前掲書『開校四十年記念 関西学院史』附録「旧教職員表」二二頁）とあり、『第十三回東部年会記録（大正九年）」「東部年会伝道者任命表」に、「山梨部 部長 甲府教会 小野」（三九頁）とある。小野の後任に、堀峰橘が関西学院礼拝主事、関西学院教会牧師として任命された。関西学院教会の歴代牧師表に、「第一代牧師 小野善太郎 一九一五年四月―一九二〇年三月」「第二代牧師 堀峰橘 一九二〇年四月―一九二一年三月」とある（前掲書『関西学院教会80年史』三一頁、三二五頁）。なお、前掲書『関西学院百年史 通史編Ⅱ「年表」』に、

「三・一二 堀峰橘 礼拝主事兼任」とある。

- (158) 外岡松五郎については、『商光』第八号（関西学院高等部商科会、一九二〇年二月）「雑報」高等学部職員異動欄に、「三月 会社経営の為職を退かる、の止むなきに至る」（一九七頁）とある。

- (159) 釘宮辰生については、「村上博輔日記抄」四 注（22）を参照のこと（前掲書『関西学院史紀要』第十号、一三八～三九頁）。

- (160) 書とは、旧約聖書の約書<sup>よしよあき</sup>亞記のこと（『対照聖書辞典』警醒社書店、一九二四年）。

- (161) 「卒業式に永井柳太郎氏講演さる」（前掲書『関西学院高等商業学部二十年史』附録「年譜」三三頁）とある。

- (162) 石本・村井とは、前掲注（58）の剣道部で商科第二学年の石本廣一・村井種一であろう。

- (163) 教師会議の議事に、「村上〈博輔〉氏ハ文科四年ノ結城（由木康）及ビ大島〈隣三〉ガ卒業追試験ニ及第セシ旨ヲ報告シ」とある（前掲「高等学部教授会記録」第九二回、三月二九日）。

本資料の翻刻には、元本学大学院文学研究科大学院生の山下真弘さん、永野啓子さん、大学図書館嘱託職員の井戸田史子さんの多大なるご協力を得ました。記して感謝の意を表します。

（比留井弘司、井上琢智）